

暫定版

区自治協議会(第7期)を振り返って
～成果と課題～

新潟市区自治協議会会長会議

令和 3 年 3 月 31 日

はじめに

区自治協議会は、平成19年の政令市移行に伴う区政施行に合わせ設置されて以来、「協働の要」として、多種多様な地域課題の解決に向けたさまざまな取組みを重ねてきました。

本資料は、第7期の各区自治協議会が、どのような地域課題に対して、どのように考え、取組みを展開してきたか、またその取組みの結果・成果や、残された今後の課題などについて記録し、次期以降へと引き継ぐことで、今後の区自治協議会のさらなる活性化へとつなげることを目的に、作成したものです。

地域の特性・事情に応じた各区の工夫した取組みが記録されていますので、これからの区自治協議会委員におかれましては、自らの区はもちろん、他区の取組みについてもご一読いただき、今後の地域活動の一助にさせていただきたいと思えます。

また、巻末には、コロナ禍を踏まえ、「新型コロナウイルス感染症による区自治協議会の諸課題に関する情報共有」を掲載しましたので、こちらをご参照いただき、今後の活動に際して参考にさせていただきたいと思えます。

結びとなりますが、区自治協議会委員として、住民自治の推進にご尽力いただいた今期250余名の委員の皆さまに感謝を申し上げます。

新潟市区自治協議会会長会議

座長 小田 信雄

目次

北区自治協議会

北区自治協議会（第7期）を振り返って・・・・・・・・・・	1
令和元年度北区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	4
令和2年度北区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	8

東区自治協議会

東区自治協議会（第7期）を振り返って・・・・・・・・・・	9
令和元年度東区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	13
令和2年度東区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	19

中央区自治協議会

中央区自治協議会（第7期）を振り返って・・・・・・・・・・	20
令和元年度中央区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	24
令和2年度中央区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	28

江南区自治協議会

江南区自治協議会（第7期）を振り返って・・・・・・・・・・	29
令和元年度江南区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	33
令和2年度江南区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	36

秋葉区自治協議会

秋葉区自治協議会（第7期）を振り返って・・・・・・・・・・	37
令和元年度秋葉区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	42
令和2年度秋葉区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	51

南区自治協議会

南区自治協議会（第7期）を振り返って・・・・・・・・・・	52
令和元年度南区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	58
令和2年度南区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	63

西区自治協議会

西区自治協議会（第7期）を振り返って・・・・・・・・・・	64
令和元年度西区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	67
令和2年度西区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	72

西蒲区自治協議会

西蒲区自治協議会（第7期）を振り返って・・・・・・・・・・	73
令和元年度西蒲区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	77
令和2年度西蒲区自治協議会提案事業 事業評価書・・・・・・・・	80

新型コロナウイルス感染症による区自治協議会の諸課題に

関する情報共有について（第7期から第8期へ）・・・・・・・・	81
--------------------------------	----

北区自治協議会（第7期）を振り返って

北区自治協議会会長 松田 正實

1 はじめに

令和元年度からの第7期区自治協議会は、委員30名中、新メンバーを21名加えてのスタートとなりました。毎月一回住みよい北区のまちづくりに向けて話し合い、地域課題の解決に取り組んできました。

全体会では主に区役所から提案される事業内容に対して協議を行い、部会では地域の身近な課題を話し合っ事業を行ってきました。

昨年度の区自治協議会提案事業では、独り暮らしの高齢者や子どもたちの見守りをテーマにしたフォーラムの開催、乳幼児を育てる環境の改善に向けた冊子づくり、北区内の小学6年生を対象とした国際的なヴァイオリン奏者のコンサートの実施などを行って好評でした。

今年度は新型コロナウイルス感染症の発生により、感染防止対策として、会議は書面開催、区自治協議会提案事業は内容を変更しての実施を余儀なくされました。

コロナ禍において区自治協議会はどうあるべきか、次の第8期北区自治協議会に引き継いでいただくため、第7期の詳細な活動成果や課題などについて報告いたします。

2 取組内容・成果・課題

(1) 全体会について

ア 会議運営（新型コロナウイルス感染症対策）

新しい生活様式に基づく運営ガイドラインを令和2年6月1日に決めました。これに基づき、委員同士の間隔が2m開けられるよう、座席を変更し、マスク着用を原則としました。

間隔を離れたことにより、発言しにくくなったとの意見が多くあり、全員参加の会議とするために、テーマによってはグループ協議を取り入れるなど工夫が必要と思われます。

イ 北区自治協議会委員研修会の実施

令和元年度は、「特色ある区づくり予算事業」に関連する施設を視察しました。現場で地域の人々の思いを聞き、理解することができました。バスでの移動は、委員同士のコミュニケーションの機会ともなりました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で従来の視察は難しかったため、座学での研修としました。北区で活躍する山口正康医師を講師に「新型コロナから学ぶこと」と題し、現状と地域でできる取組みなどについて話していただきました。

医療関係者からの具体的な話を聞き、今後の地域での活動に生かせる知見を得ることができました。

(2) 部会・提案事業について

ア 総務部会

総務部会は、区自治協議会全体の運営、協議内容の検討、区自治協議会だよりの編集を所管する部会です。

全体会の内容を事前に確認し、より活発な区自治協議会とするにはどの様にすべきか検討を行いました。また、区自治協議会をより多くの方に知っていただけるよう広報紙の編集を行いました。

令和2年度の市政世論調査の結果において、「区自治協議会の名前も活動内容も知っている」と答えた北区民は26.2%（市全体は17.4%）となっており、活動内容まで含めた認知度は、8区中一番高くなっています。一方で、「知らない」と答えた区民は40.4%（市全体は52.8%）となっており、引き続き区自治協議会の活動を広報していくことが必要です。

イ 地域づくり部会

地域づくり部会は、賑わいづくり、公共交通、地域産業、人口減少、空家活用、防災分野を所管する部会です。

令和元年度は、区内の見守り活動を行っている団体の情報交換の場として「北区みんなで見守り隊」と題したフォーラムを開催しました。

令和2年度は、高齢者の外出を促し、健康寿命の延伸を図るため、区内の多様な生活交通網を集約したマップを作成しました。

ウ 福祉教育部会

福祉教育部会は、子育て、教育、医療・保健、福祉分野を所管する部会です。

令和元年度は、新潟医療福祉大学の学生による家庭介護セミナーを開催し、学生と地域の交流によりつながりが深まり、支え合いの機運を高めることができました。また、乳幼児の育成環境改善のため、子育てに大切なことをまとめた「ママ・パパ応援パンフレット」を作成しました。

令和2年度は、この第2弾として、思春期の子育ての参考となるよう、小学校高学年から中学生の保護者向けのパンフレットを作成しました。

エ 自然文化部会

自然文化部会は、文化・スポーツ、環境、空家対策分野を所管する部会です。

令和元年度は、区内の小学校6年生を対象に、音楽を身近に楽しむ機会を設け、感性を育むため、ヴァイオリンコンサートを開催しました。また、福島潟のラムサール条約登録に向けて、パンフレットの配布やパネル展示を行いました。

令和2年度は、豊栄高等学校の協力で、福島潟の魅力を発信する動画を制作、配信しました。

※提案事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

3 おわりに

第7期を振り返り、委員から全体会については、行政の事業内容や各団体の状況を詳しく知ることができ、大変勉強になった、自治会活動の役に立ったとの声がある一方、報告事項が多く、人数も多いため意見が出しにくい、全員が議論に参加するための工夫はできないかなどの課題が挙げられました。

また、部会については、一つのを皆で作り上げていく大変さと楽しさを改めて感じた、委員が主体となり成果が大きかったとの声があり、さらに委員が主体となり、多様なニーズに対応できる取組みが必要であるとの課題が挙げられました。

また、コロナ禍において人との関わりが分断され、交流が否定されていると感じる今、人と人をつなげ、みんなが元気になれるような事業に取り組みたいとの意見が寄せられました。

第8期では、このような点を踏まえつつ、協働の要としてさらなる活動の活性化が図られることを期待します。

区自治協議会提案事業 事業評価書

北区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	北区みんなで見守り隊 【事業費予算 1,000千円】
事業目的・概要	北区では、地域の方々を中心として、登下校中の子どもたちや支援が必要な高齢者等、様々な見守り活動が積極的に行われている。 見守りを行う各団体では、独自のノウハウや実践的なアイデアを持っており、見守りの対象が異なる活動でも互いにヒントになるものがあると思われる。そこで、「見守り」をキーワードに共通項を見出す機会として、フォーラムを開催し、見守り活動を行っている多数の人・団体の情報共有を図る。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	北区みんなで見守り隊フォーラム ■日時 11月27日 13:00～15:50 ■会場 新潟市北区文化会館ホール ■参加 185人 ■内容 第1部 基調講演 ①三流亭楽々さん ②中野妙さん 第2部 事例発表 ①葛塚わんわんパトロール隊 ②北区民生委員・児童委員協議会 ③ナミックス株式会社・株式会社竹中工務店 第3部 意見交換 パネルディスカッション(「みんなで支え合う地域づくり」について) また、当日会場集めた意見(付箋300枚以上)を分類及びキーワード化し、活動の評価と課題を洗い出し記録集を作成。今後の方向性をスローガン化した。
事業の評価 <small>地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の詳細など</small>	■北区の「見守り」の特長として、地域や企業はじめ多様な団体それぞれが自主的に活動を展開しているところに着目した。一方で、団体間の「ヨコ」のつながりが希薄になっている点が地域課題になっているものと考え、事業に取り組んだ。 ■参加者を限定しないフォーラム形式で事業を開催し、多様な団体等に参加してもらえた。幅広い層にアプローチできた点で、事業の公益性が認められる。 ■当日集まった意見(付箋)をもとに、地域づくり部会で振り返りを実施し、当事業の総括と今後の方向性をスローガン化した記録集(ヒント集)を作成した。地域のなかで容易に共有また還元できる成果品となった点で、一定程度の効率性が確保できた。 ■さらに、フォーラムでは「地域の食の見守り隊」として、食生活推進委員協議会北支部がバッククッキングのPRと蒸しパン試食会を開催した。「食」から見守りを捉える、新たな視点を提起する機会となった。 ■アンケート結果から高い満足度と積極的な意見を得られた。区全体として見守り活動が広がる機運を期待する成果として、実効性が高いものと思われる。 アンケート結果(回収122人・回収率65.9%) □参考度(「大変参考になった」、「まあまあ参考になった」を合わせて) 基調講演:96%/事例発表:86%/パネルディスカッション:66% □主な感想 (評価)新しいアイデアに触れる機会になった/他地域の取組を知り心強い/自分の団体でもやってみたい/地域に感謝の思いが芽生えた 等 (課題)若い世代の参加が少ない/担い手が足りない現状がある/見守り活動が行われていることを知る機会が少ない/地域の見守りへの関心をどう維持していくか 等
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

北区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	生きる力・支えあう子育て事業 【事業費予算 1,000千円】
事業目的・概要	①全てのママ・パパ応援プロジェクト 乳幼児の育成環境を改善のため、子育てに大事なことをまとめたテキストを作成、配布し、区内全ての乳幼児の保護者が学ぶ機会を設ける。 ②大学生と協働！地域住民の健康と福祉を支えるまちづくり事業 新潟医療福祉大学学生が家庭介護セミナーを開催。学生と地域の繋がりを深めながら、支え合いの機運を高め、地域の活性化へと結びつける。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	①全てのママ・パパ応援プロジェクト ・発行形態 A5判 16頁 中綴じ製本 フルカラー(4色刷り) ・内容 「ママとパパへ」と「ママとパパを応援する全ての人へ」の2部構成とした。どちらもマンガから始まり、手に取りやすく、読まれやすい作りとした。「ママとパパへ」では、ほめることの効果、話しの聞き方など子育ての際に大事なことをまとめた。「ママとパパを応援する全ての人へ」では、ママとパパが悲しくなること、嬉しくなることなどを具体的に列記した。 ・こんにちは赤ちゃん訪問事業での配付の際は、ケース付き ・作成部数 10,000部 同事業での配付のほか、区内保育園・こども園・幼稚園などを通じて配付 子育て支援センター、児童館、児童センター、図書館などの各公共施設に設置 ・アンケート回収(帯で案内し、ネット回答) ②大学生と協働！地域住民の健康と福祉を支えるまちづくり事業 ・新潟医療福祉大学学生による家庭介護セミナー開催(全回同一内容) 1. 9/21(土)豊栄健康センター 参加者 10人 2. 10/12(土)北地区コミュニティセンター 参加者 6人(台風19号の影響で人数減) 3. 11/16(土)長浦コミュニティセンター 参加者 14人 ・学生たちが講師となり、衣服の着替えのお手伝いの実習のほか、レクリエーション、茶話会など交流を行った。 ・小林委員が日頃の学習知識を活かし、講師として活躍。
事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価 など)</small>	①全てのママ・パパ応援プロジェクト ・アンケートの結果 この冊子が子育てに役立つと思うかの問いに、大いに思う、思うが合わせて92% 【ご意見・感想より】 まさに悩んでいることが書いてあった。／一人で悩まなくてもいい、「みんなで育児」が心に響いた。／気持ちが楽になった。／漫画により興味が持てた。／家族全員向けがいい。／妻の気持ちが分かった気がする。／お母さんだって休んで良いと言われた気がした。／コンパクトに大切なことがまとまっている。／祖父母に読んでもらいたい。／困ったら相談しようと思った。／など ・木崎小学校から先生たちに役立つと、職員用としての送付要望があった。 ・民間事業者から子育て中の社員向け冊子に一部転載させてほしいとの要望があった。 ・保護者へ家庭教育の大切さを伝えるだけではなく、北区に子育て応援の輪を広げるといふ目的は達せられたと思われる。 ②大学生と協働！地域住民の健康と福祉を支えるまちづくり事業 ・新潟医療福祉大学で学ぶ学生が、自ら学習した知識や技能を活かし、家庭介護セミナーを開催。学生は発表の場を持ち、参加者は家庭でできる介護の技術を知ることができた。 ・茶話会の中で、学生は直接参加者の感想を聞くことができた。 ・学生と地域の繋がりが深まり、支え合いの機運を高めることができた。 ・令和2年度以降、特色ある区づくり事業(区企画事業)で継続することとなった。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

北区自治協議会

区分	内容																								
テーマ・事業名	潤いの福島潟創出事業 【事業費予算 1,000千円】																								
事業目的・概要	北区の潟の魅力を広く発信し区民の理解を深めるとともに、福島潟のラムサール条約登録推進に向け、広く周知を図る。																								
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>① 「潟ツーリズム研修会」への参加</p> <p><第1回> 日にち 7月17日(水) 場所 水の駅「ビュー福島潟」 テーマ ラムサール条約を活用した持続可能な地域づくりについて</p> <p><第2回> 日にち 2月13日(木) 場所 阿賀野市コミュニティセンター 瓢湖憩の家 テーマ エコツーリズムの手法を用いたまちづくりについて</p> <p>② 啓発パネル巡回展示、パンフレット配布</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>期間</th> <th>場所</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月1日～6月28日</td> <td>ビュー福島潟 6階展望ホール</td> <td>菜の花時期、GW</td> </tr> <tr> <td>6月29日～7月10日</td> <td>北区文化会館 ロビー</td> <td>7/1 自治協研修会</td> </tr> <tr> <td>7月10日～11月6日</td> <td>ビュー福島潟 6階展望ホール</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9月23日</td> <td>ビュー福島潟 6階展望ホール</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11月7日～12月26日</td> <td>葛塚コミセン 1階ロビー</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1月1日</td> <td>豊栄南運動公園屋内GB場</td> <td>北区元旦歩こう会(参加者数〇人)</td> </tr> <tr> <td>1月10日～3月末</td> <td>木崎コミセン ロビー</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※各施設 平均来館者数 ・ビュー福島潟 1,896人/月(有料エリア) ・北区文化会館ロビー 2,535人/月(6～7月) ・葛塚コミセン 2,943人/月 ・木崎コミセン 1,036人/月</p> <p>③ 第12回北区ふゆっこまつりでのPRブース出展 (中止) 日時 2月23日(日) 場所 新潟医療福祉大学 内容 啓発パネルの展示、パンフレットの配布、啓発缶バッジ作成体験コーナー</p>	期間	場所	備考	4月1日～6月28日	ビュー福島潟 6階展望ホール	菜の花時期、GW	6月29日～7月10日	北区文化会館 ロビー	7/1 自治協研修会	7月10日～11月6日	ビュー福島潟 6階展望ホール		9月23日	ビュー福島潟 6階展望ホール		11月7日～12月26日	葛塚コミセン 1階ロビー		1月1日	豊栄南運動公園屋内GB場	北区元旦歩こう会(参加者数〇人)	1月10日～3月末	木崎コミセン ロビー	
期間	場所	備考																							
4月1日～6月28日	ビュー福島潟 6階展望ホール	菜の花時期、GW																							
6月29日～7月10日	北区文化会館 ロビー	7/1 自治協研修会																							
7月10日～11月6日	ビュー福島潟 6階展望ホール																								
9月23日	ビュー福島潟 6階展望ホール																								
11月7日～12月26日	葛塚コミセン 1階ロビー																								
1月1日	豊栄南運動公園屋内GB場	北区元旦歩こう会(参加者数〇人)																							
1月10日～3月末	木崎コミセン ロビー																								
事業の評価 (地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価 など)	<p>① 「潟ツーリズム研修会」への参加 ラムサール条約湿地の「瓢湖」及び環境省選定ラムサール条約湿地潜在候補地の「福島潟」を観光資源として有効活用を図り、交流人口の拡大を目指す「潟ツーリズム」について情報共有することで、ラムサール条約についての理解を深めることができた。</p> <p>② 啓発パネル巡回展示、パンフレット配布 平成30年度に作製した、ラムサール条約登録啓発パネル及びパンフレットを区内のコミュニティセンターや、人が多く集まるイベント等で展示・配布することで、普段は潟に触れる機会の少ない方にもラムサール条約について知ってもらう機会となった。</p> <p>③ 北区ふゆっこまつりでのPRブース出展 (中止) 子どもにとって親しみやすい缶バッジ作成体験ブースとすることで、親子連れなど、普段はラムサール条約に関心を持ってもらうことが難しい年代にも、ラムサール条約について考えてもらう機会となるよう工夫した。</p>																								
備考																									

区自治協議会提案事業 事業評価書

北区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	子どもと音楽の出会い創出事業 【事業費予算 2,000千円】
事業目的・概要	区内小学生を招待し、音響の優れた北区文化会館ホールにてプロの演奏家によるコンサートを開催することで、質の高い音楽との出会いの場を提供し、次世代を担う子どもたちの感性を育み人材育成を図る。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	「コンサートホールによろこそ」 日時 9月11日(水) 午前の部:10時開演、午後の部:14時開演 場所 北区文化会館 ホール 参加者 区内小学6年生全員 延べ694人(教員、自治協議会委員含む) ※午前と午後の部に分け、無料招待 出演者 大谷康子さん(ヴァイオリン)、小山さゆりさん(ピアノ)
事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価 など)</small>	<p><アンケート結果> 回答数 677人(回答率:97.6%) ○回答者の75.6%が「今回のようなコンサートがあったら、また聴きたい」と回答。 ○主な感想 「初めて生でヴァイオリンを聴いた。すごく楽しかった。」 「普段、音楽を聴く機会が少ないので、こういう体験ができて嬉しかった。」 「他の学校の人と友達になれて楽しかった。」 「プロの演奏を聴いたのは初めてだったので、いい体験になった。」等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北区文化会館と連携し、音響の優れた同館ホールでプロの演奏家によるコンサートを開催することで、子供たちが質の高い音楽に触れ、体感できる機会を提供できた。 ・親しみのある曲を演奏したり、みんなでピリブを合唱したりなど、音楽を身近なものとして感じ、最後まで飽きずに楽しむことのできるコンサートとなった。 ・児童一人ひとりにチケットを渡し、入場の際にはもぎりをを行い、チケットに印字の席を自分で探すなど、実際のコンサートに近い環境を体験してもらうことができた。
備考	

(※令和2年度 北区事業評価書は令和3年3月中に確定)

東区自治協議会（第7期）を振り返って

東区自治協議会会長 後藤 岩奈

1 はじめに

東区自治協議会は、地域を取り巻く環境が変化していく中、より良い東区の実現のため、区自治協議会提案事業の実施や、市への建議など、さまざまな活動を行ってきました。委員一人ひとりが、区民と区役所をつなぐ「協働の要」としての役割を果たすため、考え、行動した2年間だったと思います。

また、第6期区自治協議会の成果や課題を踏まえ、今期においては、会議の活性化に取り組むこととし、全体会を行政からの報告を受ける場とするだけでなく、委員が積極的に発言でき、意見交換ができる場となるよう心掛けた結果、一定の成果は出たものと感じます。

次期の東区自治協議会において、さらなる地域課題の解決に取り組んでいただけるよう、第7期東区自治協議会の成果や取組みをここに報告いたします。

2 取組内容・成果・課題

(1) 全体会について

ア 「東区バスの運行に関する要望書」の提出

東区では、平成19年4月から2路線の区バスを運行しており、区民の移動手段として利用されています。現在、運行している小型バスは老朽化したツーステップの旧型車両のため、高齢者を中心に乗降に大変苦労される様子が多く見られます。区内の高齢化が一層進んでいく中で、高齢者をはじめ区民にとってより安心して利用できる区バスを運行することは、東区の活性化に欠かせないと考え、令和2年9月に市長へ要望書を提出しました。

要望内容は、「東区バスへの小型ノンステップバス車両の導入を早期に進めていただきたい」ということと、「シニア半わり制度について今後も継続して実施していただきたい」というものです。

今後も動向を注視し、さらなる区バスの利用促進や公共交通に関する地域課題に取り組んでいきます。

イ 「適応指導教室東区分室」の設置に向けた協議

平成30年12月に「東区内への適応指導教室設置に関する要望書」を市長及び教育長へ提出した後、第2部会の委員を中心に教育委員会との協議の場を継続

的に設け、他区の施設を見学するなど、区自治協議会委員として見識を深め、適応指導教室の設置に向けて意見を述べました。

令和2年9月には、新潟市教育相談センターの適応指導教室「ぐみの木教室」の東区分室が、東区プラザ内に開設される運びとなり、子どもたちの未来を想う委員の熱意が実を結び、大きな成果であったと思います。

ウ 新潟県立大学との連携

令和元年度の東区自治協議会委員研修会として、新潟県立大学2年生の「地域社会論」の授業において、「県立大学生が考える東区のまちづくり」というテーマでワークショップを行いました。各部会で担当分野に沿ったテーマを設定し、グループに分かれて委員がファシリテーターや記録係を務め、学生の声に耳を傾けました。若い世代との意見交換を通じて、東区のまちづくりを考える貴重な機会になったと感じます。

また、県立大学連花祭では、防災関係の出展を行い、防災グッズやハザードマップの説明により学生や地域住民と触れ合い、災害時に対する意識の向上に取り組みました。

今後もあらゆる機会を捉え、積極的に連携を図り、多世代の意見が反映できる区自治協議会でありたいと考えます。

エ 区自治協議会提案事業の実施方法の見直し

より良い東区の実現を目指し、地域課題の解決に取り組むため、これまで各部会においてさまざまな事業を実施してきました。

令和2年度は、区自治協議会提案事業の方向性を見直しにより、イベント型から、地域課題の調査研究に基づく課題解決型に移行することとし、各部会で地域課題を抽出し、それに係る現状の把握等に努め、区自治協議会としての取組みを検討しました。

提案事業検討部会において、令和2年度の実施状況を踏まえ、今後に向けて検討した結果、委員任期1期2年のうち、1年目は地域課題の調査研究を行い、2年目にそれを踏まえた事業を実施する方法が、区自治協議会の活動において望ましいのではないかと考え、令和3年度以降は、委員任期である2年間をひと区切りとして、区自治協議会提案事業に取り組むこととしました。

オ 区自治協議会の認知度向上への取組み

平成30年度の「市政世論調査」では、東区は、区自治協議会の認知度が8区中、最下位となっていました。区自治協議会の活動を知ってもらうため、各事業の中で積極的にPRするとともに、広報紙「自治協かわらばん」を区だよりの紙面に掲載するなど、認知度向上への取組みを行ってきました。

令和2年度の同調査では、区自治協議会の認知度が2.6ポイント上昇してお

り、これまでの積み重ねが実を結んだものと感じています。

とはいうものの、決して高い認知度ではありませんので、区自治協議会の活動や取組みを多くの区民へ知ってもらうために、引き続き、効果的な広報の形を模索していきます。

(2) 部会・提案事業について

令和元年度は、「東区まちづくり力・向上プロジェクト」と称し、各部会の担当分野においてさまざまな事業を実施しました。各事業を区自治協議会全体の事業と位置づけ、実施に向けて委員同士で連携し成果を上げることができたと評価しています。

令和2年度は、各部会で抽出した地域課題の調査研究を基に、事業内容等を検討する方向性としていましたが、昨今のコロナ禍の影響を受け、集客を伴う事業実施は困難であることから、地域課題の解決に向けた啓発グッズやリーフレット等の作成や配布など、普及啓発事業に取り組みました。

ア 第1部会

第1部会は、「市民協働部門」として、コミュニティ（地域活動・市民活動）、防犯・防災・交通安全や行政運営などを所管する部会です。

令和元年度は、「じゅんさい池自然環境保全事業」、「発災時における地域防災対応力向上事業」を実施し、令和2年度は、「高齢者の安心安全プロジェクト」に取り組みました。

イ 第2部会

第2部会は、「福祉・教育・文化部門」として、福祉・子育てや教育・生涯学習、文化・スポーツなどを所管する部会です。

令和元年度は、「東区めぐり子どもバスツアー」、「東区の魅力PR・おもてなし事業」を実施し、令和2年度は、「子どもの未来応援プロジェクト」に取り組みました。

ウ 第3部会

第3部会は、「産業・環境部門」として、商工業・農業・観光や住環境（公害・ゴミ・公園・下水）、都市交通・都市景観、自然環境などを所管する部会です。

令和元年度は、「東区の農産物魅力発信事業」、「東区の公共交通の研究」を実施し、令和2年度は、「公共交通の利用促進プロジェクト」に取り組みました。

※提案事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

3 おわりに

昨今のコロナ禍により、私たちの生活様式や行動は、大きな変化を余儀なくされました。会議の書面開催や、感染予防対策に配慮するなどの対応が必要となり、改めて会議の持ち方や、区自治協議会の活動のあり方を見直す時期にあると考えます。

また、今期において、地域課題の把握や効果的な区自治協議会提案事業の実施について検討し、見直しを図ったことで、今後新しい展開が始まるものと期待しています。

第8期区自治協議会が、新しい体制の中で、区民と区役所の「協働の要」としての役割を果たし、私たちの東区がますます住み良いまちとなるよう取り組んでいくことを願います。

区自治協議会提案事業 事業評価書

東区自治協議会

区 分	内 容
テーマ・事業名	東区まちづくりカ・向上プロジェクト【事業費予算 5,000 千円】のうち じゅんさい池自然環境保全事業【事業費予算 1,740 千円】
事業目的・概要	じゅんさい池公園は、アカマツ林に囲まれ、全国的にも珍しい2つの砂丘湖があるなど、住宅地の中で貴重な緑地環境を有している自然公園であるが、近年は、外来植物の繁茂や外来生物の繁殖がみられ、生態系等に被害が及んでいる。このじゅんさい池の自然環境を守り、憩の空間づくりを進めるため、区民との協働により保全活動を行うとともに、セミナー等を通じて、課題やあるべき姿の共有を図る。
事業の実施実績 <small>(実施回数、参加者数など)</small>	<p>じゅんさい池ワークショップ（意見交換会） 【開催日】令和元年6月26日（水） 【内 容】じゅんさい池との関わりや思いについての意見交換 【参加者】45名</p> <p>葦・園芸スイレンの刈取り作業 【開催日】令和元年7月7日（日） 【内 容】じゅんさい池西池の葦・園芸スイレン等の除去 【参加者】約90名</p> <p>東区まちづくりセミナー「じゅんさい池ってどこ？まちづくりってなに？」 【開催日】令和2年2月16日（日） 【内 容】第1部：講演会「事例に学ぼう！東区のまちづくり」 第2部：意見交換会「あなたのまちのあるもの探し」 【参加者】98名</p>
事業の評価 <small>地域課題の抽出方法や 企画立案の評価 事業の公益性・実効 性・効率性の評価など</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・「じゅんさい池ワークショップ」は、45名の参加があり、参加者同士で活発に意見交換をすることができた。アンケートでは回答者全員が「よかった」と回答していることから、満足度は非常に高かったと言える。「じゅんさい池を子どもに残したい」等の意見があったが、それらの意見を活かしていく方法を考える必要がある。 ・地元のコミュニティ協議会や町内会と協働して、じゅんさい池の自然環境保全を図ることができた。次世代に残していくことを視野に入れ、子どもの参加も促していきたいが、一方で危険が伴う作業もあることから、検討の余地がある。 ・「まちづくりセミナー」では98名の参加があり、講演会や意見交換会を通して、東区のまちづくりについて考えるきっかけを作ることができた。アンケートでは回答者の75%がよかった（「よかった」「どちらかといえばよかった」の合計）と回答していることから、充実した内容であったと言える。 ・2年間、自治協議会提案事業としてじゅんさい池の環境保全に取り組んできた。今後は、東区全体の事業、まちづくりの一環として、区として取り組んでいくことを期待する。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

東区自治協議会

区 分	内 容
テーマ・事業名	東区まちづくり力・向上プロジェクト【事業費予算 5,000 千円】のうち 発災時における地域防災対応力向上事業【事業費予算 770 千円】
事業目的・概要	発災時に地域住民等からの対応を求められることが想定され、地域の特性や住民の状況等を認識している自治（町内）会の防災対応力を高めていく必要がある。これまで地域コミュニティ協議会を対象にワークショップや情報伝達訓練を実施してきたが、自治（町内）会を対象としたワークショップ等の研修会を地域コミュニティ協議会単位で開催する。
事業の実施実績 実施回数、参加者数など	<p>【開催日】①令和元年12月 9日（月）午後1時30分～4時 ②令和元年12月10日（火）午前9時30分～正午 ③令和元年12月10日（火）午後1時30分～4時</p> <p>【内 容】震度6の地震の発生を想定し、住民の安全確保に必要となる自治会・町内会の初動対応を考えるワークショップ 講義（30分） ワークショップ（70分） 発表（30分） まとめ（10分） 講師：中越防災安全推進機構</p> <p>【対 象】区内の自治会・町内会の役員及び防災士 【参加者】計 188名 ① 70名 ② 55名 ③ 63名</p>
事業の評価 地域課題の抽出方法や 企画立案の評価 事業の公益性・実効 性・効率性の評価など	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災対応力を向上させるため、東区内を3つに分けて、自治会・町内会を対象としたワークショップを開催した。町内会・自治会で参加者数にばらつきがあったものの、全体としては、3回の合計で188名と大勢の参加があった。 ・ワークショップでは参加者同士で活発な意見交換がされ、その場限りではなく、地域に持ち帰って次につながる話し合いができていた。 ・アンケートでは96%が「参考になった」（「大変参考になった」「参考になった」の合計）と回答していることから、地域で防災について考えるきっかけになったと言える。今後も、自治会・町内会で自主的に防災の備えに取り組んでほしい。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

東区自治協議会

区 分	内 容
テーマ・事業名	東区まちづくり力・向上プロジェクト【事業費予算 5,000 千円】のうち 東区めぐり子どもバスツアー【事業費予算 160 千円】
事業目的・概要	東区内の特色ある施設を実際に訪れ、見て学び体験することにより、東区の魅力の再発見と東区に対する愛着を深めることに繋げる。 また、他校の児童との交流により、子どもたちが社会性を育む機会を提供する。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>【日 時】 令和元年 8 月 20 日 (火) 午前 9 時 20 分～午後 4 時 15 分</p> <p>【参加者】 小学 4～6 年生 37 名 (4 年生：22 名、5 年生：9 名、6 年生：6 名)</p> <p>【見学先】 新潟新幹線車両センター、新潟空港屋上、 山の下関門排水機場、航空自衛隊新潟分屯基地</p>
事業の評価 (地域課題の抽出方法や 企画立案の評価 事業の公益性・実効 性・効率性の評価など)	<ul style="list-style-type: none"> ・定員を上回る多くの申し込みがあり、参加した小学生へのアンケートでも満足度は昨年度を上回る 97% となり大変好評で、喜んでいる子ども達の様子が印象的だった。 ・参加者の体調管理や昼食内容などの前回の反省点を踏まえて実施した結果、全体を通して大きな問題もなく終わることができたが、見学先については学校の授業と重複するところもあり、さらに考慮できれば良かった。 ・様々な学校から参加があり、4 年生が半数以上を占める中、5・6 年生の参加も見られたことから、他校や他学年との交流を図る機会となった。 ・過去 4 回の実施により事業目的を達成したと考えられることから、自治協議会としての実施は今年度で最後とし、これまでの実施状況をまとめた報告書を地域へと配布したことも大きな成果であるとする。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

東区自治協議会

区 分	内 容
テーマ・事業名	東区まちづくりカ・向上プロジェクト【事業費予算 5,000 千円】のうち 東区の魅力PR・おもてなし事業【事業費予算 800 千円】
事業目的・概要	東区には多くの魅力があるが、報道等で取り上げられる機会が少ないため、 区づくり事業で実施する「ゆめ・のせ・あがれ！寺山こい来いフェスタ」と連 動し、東区の魅力をPRするとともに、東区にまた来たい、住んでみたいと思 ってもらえることを目的に実施する。
事業の実施実績 <small>実施回数、参加者数など</small>	<p>イベント広報 「ゆめ・のせ・あがれ！寺山こい来いフェスタ」について、チラシや テレビ番組等で広報 【放送日】令和元年5月3日（金・祝）</p> <p>おもてなしスペースの設置 来場者の休憩スペースとしてテントを設置 【実施日】令和元年4月26日（金）～5月6日（日）</p> <p>効果検証 効果検証のためのアンケート実施 278名分集計 【実施日】4月28日（日）、30日（火） 5月1日（水）、3日（金）、6日（日）、12日（日）</p>
事業の評価 <small>地域課題の抽出方法や 企画立案の評価 事業の公益性・実効 性・効率性の評価など</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシやポスターを作成し、公共施設等に配布したことで、幅広く周知することができた。 ・飲食ブースの横に設置したことで、テントで休憩している方達が飲食ブースを利用するきっかけを作ることができた。 ・設置した場所が人の集まりやすい遊具から遠く、利用者が少なかったため、今後実施する場合は、設置する場所を検討する必要がある。 ・アンケートを実施したことで、参加者の年齢層や居住区、参加した感想などを確認することができ、来年度以降イベントを開催する際に参考となる情報を提供することができた。 ・実行委員会と連携して、東区内のコミ協や小中学校、企業と共にお互いの強みを生かしながら、本事業を実施できたことは、大きな成果と考える。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

東区自治協議会

区 分	内 容
テーマ・事業名	東区まちづくり力・向上プロジェクト 【事業費予算 5,000 千円】のうち 東区の公共交通の研究【事業費予算 300 千円】
事業目的・概要	超高齢社会の進展とともに、公共交通の需要と関心は高まっており、需要を的確に捉えながら、持続可能な公共交通体系を構築することが求められている。 東区の公共交通が抱える課題を調査・研究し、問題を解決するための方策を検討する。
事業の実施実績 実施回数、参加者数など	公共交通に関連した市内視察 【開催日】令和元年12月12日（木） 【内 容】移動スーパー事業の取り組みの紹介、現地視察（株式会社 マルイ） 住民バスの取り組みの紹介、住民バス乗車（新潟島に循環バスを走らせる会） 【参加者】東区自治協議会委員13名 公共交通に関連した学習会 【開催日】令和2年2月7日（金） 【内 容】第1部 講演会（講師：交通ジャーナリスト 鈴木 文彦 氏） 第2部 講師と自治協議会委員との意見交換会 【参加者】第1部 東区自治協議会委員20名 東区内地域コミュニティ協議会等の希望者21名 第2部 東区自治協議会委員14名 東区生活交通改善プランの検討 【内 容】東区生活交通改善プランの改定方針の確認 東区生活交通改善プラン（改定案）の確認（意見聴取3回）
事業の評価 地域課題の抽出方法や 企画立案の評価 事業の公益性・実効 性・効率性の評価など	・公共交通に関連した市内視察で学習した移動スーパーと住民バスの取り組みは、地域の生活交通を考えるうえで重要であるため、今後の自治協議会の活動に役立つものとなった。 ・公共交通に関連した学習会では、地域の方にも参加していただいたことで、地域での活動にも役立つものとなったと考える。 ・公共交通が抱える課題を解決するためには専門的な知識が必要なことが多い。本事業で学習の機会を創出したことで、今後の自治協議会での事業の基礎とすることができた。 ・東区生活交通改善プランの検討では、改定内容を確認（意見聴取）し、計画に地域の声を反映することができた。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

東区自治協議会

区 分	内 容
テーマ・事業名	東区まちづくり力・向上プロジェクト 【事業費予算 5,000 千円】のうち 東区の農産物魅力発信事業【事業費予算 740 千円】
事業目的・概要	東区には、馬鈴薯、やわ肌ねぎに代表されるような特産の農産物があるが、 区民の認知度は高いとは言えない。平成30年度に実施した料理アイデアコン テスト応募作品の活用や各種媒体等によるPRを行うことで、東区内に誇れる 特産品があることを周知し、生産者や区民の誇りづくりに繋げる。
事業の実施実績 実施回数、参加者数など	東区区民ふれあい祭でのPRブース出展 【開催日】令和元年7月15日（月・祝） 【内 容】 東区産農産物等の直売（JA新潟市が協力）、東区産馬鈴薯を使った料理アイ デアコンテスト入賞レシピ集の配布、区自治協議会認知度向上のためのアンケ ートの実施、区自治協議会の広報紙の掲示 東区安全・安心ファミリーフェスタでのPRブース出展 【開催日】令和元年10月27日（日） 【内 容】 東区産男爵いもとベーコンのケーキサレの試食（新潟市食生活改善推進委員 協議会が協力）、東区特産農産物の認知度アンケートの実施（回収数402）、アン ケート協力者への東区産馬鈴薯プレゼント、東区産馬鈴薯を使った料理アイデ アコンテスト入賞レシピの掲示・レシピ集配布 東区の特産農産物を使った親子料理教室 ※令和2年2月29日実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症の拡大 防止のため中止 【内 容】保護者向け地産地消講座 小学生向け東区産農産物を使った調理実習
事業の評価 地域課題の抽出方法や 企画立案の評価 事業の公益性・実効 性・効率性の評価など	・東区区民ふれあい祭でのPRブース出展では、JA新潟市から協力を得て、 農産物等の直売を実施することができた。来場者約14,000人のイベントで、実 際に東区産農産物に触れる機会を提供することができ、効果的に東区産農産物 の知名度を向上させることができた。 ・東区安全・安心ファミリーフェスタでのPRブース出展では、新潟市食生活 改善推進委員協議会の協力を得て、東区産馬鈴薯を使った料理の試食を実施す ることができた。来場者約1,600人のイベントで、東区産農産物の美味しさを 伝えることができ、効果的に東区産農産物の知名度を向上させることができた。 ・各イベントでのPRブースの出展では、昨年度の自治協提案事業で実施した 料理アイデアコンテストの入賞作品を活用したPRをすることで、東区の特産 農産物を広く区民に発信することができた。 ・東区の特産農産物を使った親子料理教室は、新型コロナウイルス感染症の拡 大防止のため中止となったが、定員20名に対して19名の申し込みがあった。
備考	

(※令和2年度 東区事業評価書は令和3年3月中に確定)

中央区自治協議会（第7期）を振り返って

中央区自治協議会会長 外内 光春

1 はじめに

第7期区自治協議会は、第6期で定めた「中央区自治協議会の方向性」を踏まえ、全体会の運営や部会活動を行い、審議・検討や地域課題の解決に向けて取り組んできました。

また、令和2年1月に国内で初めて確認された新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ」という。）に対しても、コロナ対策を検討・実践しながら活動を続けてきました。部会では、コロナの影響で活動が思うように進められない場面もありましたが、委員それぞれが自発的に課題に取り組み、最後までやり遂げることができました。以下、その成果と課題を振り返ります。

2 取組内容・成果・課題

(1) 全体会について

ア コロナ対策について

令和2年1月15日に国内で初めてコロナへの感染が確認され、2月中旬からは全国で感染者が散発していることなどを踏まえ、2月の全体会は開催中止とし、書面送付のみ行いました。以降も、国のコロナ対策の基本方針や緊急事態宣言を踏まえ、3回にわたり書面開催とすることで、感染拡大防止に努めました。

5月14日に県の緊急事態宣言が解除されたことを受け、6月の全体会から参集する形での会議を再開しました。開催にあたっては、運営ガイドラインを設け、出席者の密集・密接を回避するための会場選択や座席の配置、出席者への感染防止対策の徹底などの対策を講じることで、安心・安全な会議運営に努めてきました。

イ 審議・検討に重きをおいた取組み

全体会では、必要な案件を整理し、要点を絞った簡潔でわかりやすい資料作成や原則資料の事前配布を担当課・事務局にお願いすることで、委員が議論しやすく地域の意見を届けやすい会の運営を心掛けました。

また、特色ある区づくり予算においても、審議・検討に重きを置いて取り組みました。「区役所企画事業」については、部会ごとに事業を振り分け、担当課

より事業成果や次年度の取組内容を説明してもらい意見交換を行うことで、委員からの建設的な意見・提案等を各事業に反映してもらいました。「区自治協議会提案事業」についても、イベント中心ではなく、各部会での課題解決に向けた審議・検討を十分に行ったうえで、委員自らが深掘調査やモデル事業の実施を行いました。この方針により、コロナ禍においても柔軟に取組内容を見直しながら、事業を推進することができました。

ウ 委員向け研修会の実施

中央区自治協議会委員を対象とした区独自の研修会を開催しました。

令和元年度は、令和元年6月18日発生の新潟・山形県沖の地震をきっかけとして、防災に関する研修会を開催しました。区役所担当課からの説明や防災士（委員）によるワークショップなどを実施し、災害対策や避難所運営について学ぶことで、地域での活動に役立ててもらえたものと考えています。

令和2年度は、第4部会のテーマ「空き家対策」について委員で考える研修会を開催しました。空き家の問題は、個人の問題であるとともに、地域における課題にもつながることから、空き家問題に関する状況の情報を共有し、今後、地域として空き家問題に取り組んでもらうためのきっかけとすること、また、委員同士の交流や相互理解を図ることを目的に開催しました。

多くの委員から出席してもらい、講義やグループワークを通して課題を共有し、ひいては地域にも空き家に対する問題意識を共有してもらうことができたと考えています。

(2) 部会・提案事業について

ア 第1部会

第1部会は、「商店街、産業／まちなか回遊、交流人口」の分野を所管する部会です。

第7期では「古町・本町商店街の活性化」をテーマに、商業施設の閉店や新たな施設（古町ルフル等）のオープンなど、古町・本町エリアが生まれ変わるこの機会に、古町・本町商店街に対して今後の賑わいづくりの取組みにつなげてもらおうとアンケート調査を実施しました。また、このアンケート結果から同エリアでの飲食店利用が多いことがわかり、新潟中心商店街協同組合と協働してランチマップを作成し、周辺事業所へ配布することで、商店街の活性化に寄与したものと考えています。

イ 第2部会

第2部会は、「協働、健康・福祉」の分野を所管する部会です。

第7期では、赤ちゃんからお年寄りまでの幅広い世代を対象に、地域の抱える福祉分野の課題を解決する地域内の支えあいづくりを目的として、提案型に

よる協働事業を実施しました。

採択された4事業に対し、助言やサポートを行い、実効性の向上を図りました。

ウ 第3部会

第3部会は、「教育連携・社会教育／防災・防犯／歴史・文化」の分野を所管する部会です。

部会では、子どもたちの防災意識を高め、安全に避難行動がとれるようにし、併せて地域の歴史を学び愛着・誇りづくりにつなげることを目的に、「新潟の歴史から学ぶ防災まち歩き～みまもるマップをつくる～」のマニュアルを作成し、小学校に配布しました。今後、このまち歩きの手法を多くの小学校で、実践・活用してもらい、防災授業や歴史の学びにつなげてほしいと考えています。

エ 第4部会

第4部会は、「都市機能、まちなみ／生活環境／水辺、緑化」の分野を所管する部会です。

「住環境の再生」を柱として、令和元年度は「バスを中心とした公共交通」をテーマに住民・利用者の視点から公共交通の課題や解決策を検討しました。令和2年度は「空き家対策」をテーマに、空き家問題は個人だけでなく地域としての課題であることを認識してもらい、適切な空き家管理や活用を進めてもらおうと、委員を対象に研修会を開催しました。さらに、研修会の中でグループワークを行い地域の意見をまとめ、今後の空き家対策の取組みにつなげました。

オ 中央区自治協議会だより編集部会

中央区自治協議会だより編集部会では、区自治協議会がどのような組織であるか、どのような活動を行っているのか、その基本的な疑問を意識しながら「中央区自治協議会だより」を年2回発行しました。コロナの影響により、当初考えていた取材ができずに、紙面構成を変更することもありましたが、読み手の視点を考え、工夫して取り組むことで、認知度向上に努めました。

※提案事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

3 おわりに

今期は、第6期で定めた「中央区自治協議会の方向性」に基づき、委員構成や部会活動が大きく変わり、これまでの区自治協議会から一新されたスタートでした。新任委員も多く、最初は戸惑いを感じる委員もいたことと思います。「厳粛な雰囲気

気のある全体会での発言は緊張してなかなかしづらい」との声を受け、協議したい案件や地域課題などの提案を書面で受け付ける形を設け、各地域での課題を共有しました。また、取り扱う議事を整理し、これまで原則毎月行われてきた全体会について、休止する月を設けることで、議事の集中と委員の負担軽減を図りました。今後も、活発な議論の場となるよう試行錯誤を重ねてもらい、委員それぞれが地域課題に積極的に関わることができるよう期待します。

次に、今期はコロナの影響を受け、全体会の中止や書面開催、感染拡大防止策などのこれまでとは違った対応をとることを余儀なくされました。部会活動においても、事業計画の見直しや調整などが必要となりました。このような状況においても、委員一人ひとりが状況を理解し、柔軟に対応してきたおかげで、全体会・部会ともに大きな混乱もなく、区自治協議会提案事業も実施できました。

今後も、コロナの影響を受けることは必至で、次期委員も苦慮することは想像できます。大変な状況ではありますが、新しい体制のもと、活発な議論が行われ、区自治協議会の活動が中央区のさらなる発展につながることを期待しています。

区自治協議会提案事業 事業評価書

中央区自治協議会

区分	内容																	
テーマ・事業名	古町・本町商店街の活性化に向けて ～古町・本町商店街に関するアンケート～																	
事業目的・概要	商業施設の閉店や新たな施設(「古町ルフル」等)の建設など、古町・本町エリアが生まれ変わるこの機会に、古町・本町商店街に対して活性化の一助となるよう、区民の声を募り、商店街へフィードバックすることで、今後の賑わいづくりの取組みにつなげてもらう。																	
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>【令和元年度実施事項】</p> <p>○「古町・本町商店街に関するアンケート」の作成及び実施、とりまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの実施エリアや対象年齢などを検討 ・設問内容の検討 ・アンケートの実施 令和2年1月10日(金)発送～1月27日(月) ・結果とりまとめ(最終報告は4月予定) <table border="1"> <tr> <td>対象エリア</td> <td>中央区内</td> <td>発送数</td> <td>2,000件</td> <td rowspan="4">回収率41.9%</td> </tr> <tr> <td>対象年齢</td> <td>18歳から79歳</td> <td>回答数</td> <td>838件</td> </tr> <tr> <td>抽出方法</td> <td>無作為抽出</td> <td>郵送・窓口</td> <td>706件</td> </tr> <tr> <td>調査方式</td> <td>郵送(WEB回答可)</td> <td>WEB</td> <td>132件</td> </tr> </table>	対象エリア	中央区内	発送数	2,000件	回収率41.9%	対象年齢	18歳から79歳	回答数	838件	抽出方法	無作為抽出	郵送・窓口	706件	調査方式	郵送(WEB回答可)	WEB	132件
対象エリア	中央区内	発送数	2,000件	回収率41.9%														
対象年齢	18歳から79歳	回答数	838件															
抽出方法	無作為抽出	郵送・窓口	706件															
調査方式	郵送(WEB回答可)	WEB	132件															
事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など)</small>	<p>○古町・本町商店街は江戸時代から湊町新潟の拠点として歴史を刻み、発展してきた地域であったが、これまでの生活様式が変わり、商業施設などの閉店が相次いでいる。その一方で「古町ルフル」などの施設が建設されるといった新たな動きもみられる。</p> <p>○部会において古町・本町の現状視察をした際に、空き店舗が多い状態が見受けられた。</p> <p>○古町・本町の活性化に向けて当部会でできることはソフト面での支援と考え、取り巻く状況や視察した結果を踏まえて、区民の考えを商店街に届けることになった。</p> <p>○対象者については、商店街でも独自に利用者を対象とした調査実績があることから、区内の若者から高齢者まで、商店街利用者に限らず様々な意見が寄せられるよう設定し、商店街がこれまで得られなかった意見を提供できるようにした。</p> <p>○アンケートには古町の来訪状況やその目的、消費に関する設問や、課題、必要なものや理想の姿などの設問を設定し、商店街が今後の取組みを考えるうえで参考になる内容を部会で検討して盛り込んだ。</p> <p>○アンケートは838名(回収率41.9%)からの回答があり、想定よりやや高い回収率であった。具体的な提案など幅広い意見が寄せられており、区民の関心の高さ、商店街のことを心配している様子も伺うことができた。</p> <p>○調査結果は、新潟中心商店街協同組合の協力を得て商店街に提供し、貴重な意見であり今後の参考としたいとの評価をいただいた。また、行政や商工団体、市民に広く提供することで、賑わいを取り戻すための一助になることを期待する。</p>																	
備考																		

区自治協議会提案事業 事業評価書

中央区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	地域でつくりうささえ愛支援事業 ～赤ちゃんからお年寄りまで～
事業目的・概要	赤ちゃんからお年寄りまでの幅広い世代を対象に、地域の抱える福祉分野の課題を解決する地域内の支えあいづくりを目的とする。 上記目的の達成をかかげる事業を募集し、自治協委員との協働により、その事業の効果を高める。 このほか、区が実施する福祉・協働分野にかかる取り組みについて、助言やサポートを行い、実効性の向上を図る。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>【提案型による協働事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業募集にかかるチラシの作成 ○申請事業に対するサポート検討 ◇万代島こども秘密基地 主催者:みなとわいわいプロジェクト (2月29日, 3月1日) 集客が課題となっている万代島多目的広場にて、親子で遊べる場を提供し、万代島地区の賑わい創出を図る。同時に、福祉分野としては、障がい福祉関連のブース(視覚障がい体験, 親子手話など)を設置する。集客は1万人を想定。 <p>【サポート内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 公共施設への広報ポスター掲示による周知を行う。 ② 学生ボランティアへの協力依頼を行う。 ③ 当日見学や簡単なボランティア活動をし、所見をフィードバックする。 <p>⇒コロナウィルス感染症の影響により、イベント開催中止。</p> <p>【区の取り組みへの支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「自治会長・町内会長 感謝の集い」 ◇講演会の企画とアンケート作成に対する支援
事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など)</small>	<ul style="list-style-type: none"> ○第2部会は地域コミュニティ協議会の地域団体のほか、福祉分野で活躍する区支えあいしくみづくり会議や、はっぴいmama応援団、新潟青陵大学福祉心理学部といった専門分野に関わる委員らで構成している。 ○福祉分野の興味・関心のある課題として、少子高齢化を背景とする高齢者へのケアや子どもを含めた地域の中での居場所づくりの必要性が挙がる一方で、具体的な対応策としてどのような課題解決がなされているのかを知りたい、知らないという意見が多かった。 ○そこで、福祉分野の地域課題を解決しようとする取り組みを募集・サポートし、第2部会と協働することで効果が高まるような提案型協働事業を募集することとした。 ○部会で意見を出し合いながら募集チラシを作成し、広報手段として区ホームページや区だよりへの掲載、福祉関連施設、中央区民生委員へのチラシ配布を行ったが、申請が現状1件に留まっている。申請があった事業1件については、コロナウィルス感染拡大の影響により、残念ながら開催中止となってしまったが、面談を経て、サポート内容まで決定し、協働で事業を進めていくことができた。 ○来年度は、福祉関係者から支援を必要としている現場を聞き取り、チラシの配布先の再検討や団体への直接的な働きかけを行い、申請件数の増加を図る必要がある。 ○部会としては、講師の紹介やノウハウの提供、区役所や地域とのつなぎ、助成金情報の提供など、事業効果を高める支援を考えており、引き続き、実態把握のうえ、広報し、事業支援へとつなげていきたい。 ○区の取り組みへの支援としては、「自治会長・町内会長 感謝の集い」の講演テーマ及び講師選定への助言やアンケート項目の検討など、区が実施する事業のサポートを行うことで、事業効果を高めることができた。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

中央区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	子どもを守る・育てる ～新潟の歴史から学ぶ防災まち歩き～
事業目的・概要	<p>子どもたちの防災意識を高め、安全に避難行動がとれるようにし、併せて地域の歴史を学び愛着・誇りづくりにつなげることを目的とする。</p> <p>2か年かけて行う「新潟の歴史から学ぶ防災まち歩き」を実践事業とし、モデル校での試験的な取組み・検証を通して実用性を高め、どこの小学校でも実践・活用できるような仕組みをつくり普及する。</p>
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>【令和元年度実施事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「新潟の歴史から学ぶ防災まち歩き」の企画・調整 実践内容の検討 モデル校候補となる小学校への調整(実践は来年度秋予定) モデル校周辺のまち歩きを部会員で行う現地調査 過去の災害記録の調査
事業の評価 <small>地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</small>	<ul style="list-style-type: none"> ○第3部会は地域コミュニティ協議会の地域団体のほか、教育現場で活躍する地域教育コーディネーターや、防災士、新潟シティガイドといった専門分野に関わる委員らで構成している。 それぞれが抱える地域課題や興味・関心のある取組みを募り、この部会だからこそできる事業や実施後も活用される事業を検討した。 ○教育現場では、防災に関わる授業が必須となっているが、その取組み方法についてはまだまだ実践例が少ない状況である。実践例を小学校の先生に提示することで、子どもたちへの学習に役立ててもらえることができる。 ○防災士から専門知識を学びながら、実際に自分たちの住んでいる地域を歩くことで、子どもたちの防災スキル向上につながる。 ○地域にはそれぞれ歴史があり、それを学び、地域住民と交流することで地域の愛着・誇りづくりにつなげられると考えている。 ○モデル校での実践のため、候補となる小学校に協力を依頼し、区内2校での実施が決定した。来年度秋の実施を目指し、今後も、学校現場と協議を重ね、子どもたちにとってより良い授業となるよう計画していく。 ○子どもたちに作成してもらった防災マップについては、独自の名称「み まもるマップ」を付けることで分かりやすく、親しみやすいものになっている。 ○来年度、モデル校での実践を踏まえ、小学校への普及用パンフレットを作成し、学校での参考としてもらう。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

中央区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	住環境の再生～バスを中心とした公共交通～
事業目的・概要	「バスを中心とした公共交通」をテーマに、住民・利用者の視点から公共交通の課題や解決策を検討する。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>○今後、バスをより多くの人から利用してもらう上での課題を列挙したうち、より重要な課題を2つに整理した。</p> <p>課題①「乗ったことがない」「よくわからない」ことによる心理的バリア 課題②バスよりも車のほうが便利(と感ずること)</p> <p>○それぞれの課題に対する「PR強化」と「利便性向上」にかかる方策を検討し、「バス利用促進・環境改善プロジェクト」と題した資料にまとめた。</p> <p>○当部会で試行的に実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「にいがた新バスシステム時刻・運賃検索」PRチラシの作成 ・区役所窓口で転入者に対して交付している「転入セット」に上記チラシを封入 ・区内の公共施設、病院など広域から多数の人が集まる場所で上記チラシを掲示 ・NEXT21の1階アトリウムに公共交通案内の模範としてラックを設置 <p>○中央区地域公共交通検討会議の場で、各関係団体へ提案</p> <ul style="list-style-type: none"> 《警察署》 ・免許返納者へ公共交通の案内強化として制度の紹介などのチラシ配布 《新潟交通》 ・バス停分散地区に各バス停の乗り場及び現在地を明確に知らせるマップの設置 ・バス停表示を近くの店舗名などの入った分かりやすい表示に変更 ・バス車内のWi-Fi設備や電源、ネット環境の整備 など
事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価、事業の公益性・実効性・効率性の評価など)</small>	<p>○当部会の委員は、バス利用者とはバスを利用していない人の視点があることから、バスを利用するうえでの課題と問題点が2つの視点から整理できた。</p> <p>また、1号委員だけでなく、公共交通研究家が部会のメンバー となっていることによって、より専門的な観点から課題解決に対する取組みを行うことができた。</p> <p>○部会で作成した「にいがた新バスシステム時刻・運賃検索」PRチラシについては、新潟市へ転入される人に配布することによって、今後のバス利用へつながるものと期待される。</p> <p>○また上記チラシを公共施設などに掲示したが、掲示スペースの問題から、施設によって、公共交通の案内の充実度にバラつきがあった。しかし掲示施設数を増やすことで、今後のバス利用者の増加につながることが期待される。</p> <p>○当部会で課題解決に向けた方策を検討し、「中央区地域公共交通検討会議」で関係機関に直接、質問・提案できたことにより、それぞれの関係機関の取組状況も知ることができ、それを全体会議で委員にも伝えることができ、情報の共有ができたことは評価できる。</p> <p>○ハード整備にかかる高額な費用をはじめ、バスに関する様々な課題を再認識できた。</p> <p>○NEXT21の1階アトリウムにバスの時刻表やお得な制度の案内などを入れるラックを設置したことで、今まで5階の地域課窓口まで取りに行かなければならないという不便さが解消された。また1階に置くことで不特定多数の人の目に触れることから、公共交通の利用の意識醸成につながることが期待できる。</p> <p>○来年度以降も、引き続き、「にいがた新バスシステム時刻・運賃検索」PRチラシの活用や公共施設での案内掲示の充実など、区民のバス利用の意識向上につなげていきたい。</p>
備考	

(※令和2年度 中央区事業評価書は令和3年3月中に確定)

江南区自治協議会（第7期）を振り返って

江南区自治協議会会長 小林 勲

1 はじめに

第7期の江南区自治協議会は、約3分の2が新任委員となる中、第6期より引き継いだ「地域課題に対して、区役所が実施する事業と、区自治協議会の各部会で実施している提案事業の連携を図っていく」ことを目指し、取組みを進めました。

しかし、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、令和元年度第12回から令和2年度第2回までの間、全体会を書面開催としたほか、区自治協議会提案事業として当初予定していたイベントなどの事業は中止を余儀なくされるなど、当初計画通りの事業実施が困難となりました。

そのような中であっても、令和2年度は各委員が協力し、知恵を絞りながら、事業目的の範囲内で代替りとなる取組みを検討し、3密を伴わない啓発活動やアンケートを実施するなど、工夫をしながら事業を実施することができました。

2 取組内容・成果・課題

(1) 全体会について

ア 「活力ある新潟市」の実現に向けた（仮称）江南駅設置と土地利用に関する提言の提出について

区自治協議会では、平成29年度から亀田商工会議所をはじめとした区内主要団体で構成する「江南区まちづくり協議会」に参画し、新潟市の発展に寄与する江南区のまちづくりについて官民協働での検討を行っています。

第7期では、長年にわたり検討が進められている（仮称）江南駅の設置について、新駅を設置する効果や、その効果を最大限活かすための周辺開発の条件等を調査・分析した結果のほか、「住みよいまち・暮らしたいまち新潟」の実現につながる新潟市の土地利用のあり方についてまとめ、『「活力ある新潟市」の実現に向けた（仮称）江南駅の設置と土地利用に関する提言』として、令和元年6月10日に市長に提出しました。

市長からは、「いただいた提案も踏まえ、新潟市を活力ある、魅力ある地域にしていきたい」との発言をいただき、今後、江南区のまちづくりがさらに推進されることを期待しています。

イ 会議の開催方法や新たな体制・運営の確立について

新型コロナウイルスの影響に伴い区自治協議会会長会議で提案のあったオンライン会議の開催について検討を行いました。オンライン会議を開催するためには、インターネット環境や必要機材を有していない委員のオンライン会議の参加方法や会議室の環境整備、オンライン会議用のソフトウェアの設定や利用の習得、進行のルールづくりなど課題が多岐にわたっていることを整理しました。

また、委員からの意見では「書面会議では委員同士のタイムリーな意見交換が実施できない」との意見や「対面で行うことで人間関係、人と人とのつながりをつくることも重要」との意見も出されました。

そのため、原則は対面での開催が望ましいものの、感染症拡大防止や若い世代の参画を図るためにも、可能な人のみオンラインで会議に参加できる方式など、引き続き会議開催の見直しについて検討していくこととしました。

ウ 区自治協議会委員研修会の実施

令和元年度は、重要度が増している防災をテーマに市の施設等を視察する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により中止となりました。

令和2年度は、「やまこし復興交流館 おらたる」や「おぢや震災ミュージアムそなえ館」を視察し、実際に中越大震災を経験した方からの講話や被災地の視察を通じ、重要度が増している防災に対する理解を深めるとともに、地域コミュニティの重要性について考える機会としました。

(2) 部会・提案事業について

ア まちづくり部会

まちづくり部会は、道路・公共交通・産業振興分野を所管する部会です。

第7期では、江南区の特産品や区自治協議会を市内外に知ってもらうため、イベント等でのPR活動を主な取組みとして検討していましたが、新型コロナウイルスの影響により、イベントそのものが中止になるなど、当初予定していた事業通り実施できませんでした。

そこで、当初の目的を達成するため、令和元年度は、区の特産品をモチーフとした江南区親善大使キャラクターのクリアファイルやシールを作成し、令和2年度には、江南区親善大使のマスク貼付け用シールを作成、区内の園児に配布するとともに、区バス・住民バス、公用車等に貼付けできるマグネットを作成することで、区の特産品や区自治協議会のPRを図りました。

イ 安心安全部会

安心安全部会は、防犯・防災・交通安全、地域医療・福祉を所管する部会です。

災害の際に必要な備えや対応を習得してもらうため、PR活動を行うとともに、子どもから大人まで「支え合い」「助け合い」を考えるきっかけづくりを行いました。

令和元年度は、災害時にも役立つパッククッキングの講習会を地域の防災訓練で実施したほか、防犯防災の啓発グッズの作成・配布、各地域に点在する地域の茶の間のマップや立ち上げ方のわかるパンフレットを作成しました。

令和2年度は、子どもとのおうち時間を充実させるため江南区親善大使ペーパークラフトを作成したほか、区役所だよりの「防災Q&A」コーナーを連載、公民館主催の「新しいカタチの防災訓練」にも協力し、防災に関してPR活動を行いました。

ウ 環境・教育部会

環境・教育部会は、生活環境・教育・生涯学習、文化・スポーツを所管する部会です。

令和元年度は、子どもたちの声を生かし、「きれいなまちづくり運動」と「小学生フロアカーリング体験交流会」を実施しました。また、江南区親善大使を活用した支え合いの絵本「みんなにここにこ」の場面を抜粋したぬり絵を作成しました。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により事業を変更し、中学生を対象に区の現状や目指したい将来の姿を把握し、区自治協議会の取組みなどに活用するため、アンケートを実施しました。

第8期では、アンケート結果を踏まえ、新たな事業を構築していくことを期待します。

エ 地域課題解決サポートプロジェクトの実施

各部会の取組みとは別に、暮らしやすい地域の実現につなげるため、これまで各地域で実施してきた「人口減少対策に向けたワークショップ」で整理された「コミュニティの維持・向上」や「現状の地域課題の解決」につながる地域主体の取組みについて、区自治協議会提案事業として支援する制度を令和2年度に新たに設けました。

新型コロナウイルスの影響により、全てのコミュニティ協議会で実施することはできませんでしたが、引き続き各コミュニティ協議会と連携しながら、取組みを推進していくことを望みます。

※提案事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

3 おわりに

人口減少、少子・超高齢化などの従来からの課題に、感染症に伴う課題が新たに加わり、地域課題はさらに複合的なものとなっています。第8期では、新型コロナウイルス感染症の影響も踏まえ、改めて区の変化や課題を区役所と共有し、各部会を中心に区役所が実施する事業と、区自治協議会の各部会で実施している提案事業の連携や役割分担を図っていくことが必要となっています。また、1期2年間で課題を解決することは容易ではないことから、各部会で解決を目指す課題を絞った上で、取組みを進めることも有効ではないかと考えます。

第8期では、このような点を踏まえつつ、協働の要としてさらなる活動の活性化が図られることを期待します。

区自治協議会提案事業 事業評価書

江南区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	まちづくりサポートプロジェクト 【事業費予算2,000千円】
事業目的・概要	<p>【目的】 江南区をPRできるイベントやコミュニティの活性化、人口減少対策に向けた地域の取組みをサポートすることで、江南区のさらなる魅力発信および地域の課題解決につなげる。</p> <p>【概要】 ・区内で実施するイベントへ参加し、江南区や区自治協議会のPRを図る。 ・公共交通に関する勉強会の実施</p>
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>◎公共交通に関する勉強会の実施 ・大江山地区で実施されたアンケート調査の結果等を活用して、現状の地域公共交通に関する課題について認識を深めた。 ・人口減少・少子超高齢化が進む一方で、現状では、車を運転できることを理由に公共交通の利用意識が低い傾向にあり、移動手段が限られている子どもや高齢者の生活交通の確保策が課題に挙げられた。 ・今後はバスだけでなく、タクシー(デマンド交通含む)や地域での助け合い、目的バスの有効活用など、地域に即した移動手段を構築する必要があるとの意見が挙げられた。 ・その他、江南区生活交通改善プランの見直しに向けて、江南区地域公共交通検討会議に部会員(3名)が出席するとともに、会議結果等を部会で共有し、議論に生かした。</p> <p>◎人口減少対策に向けた新たな支援制度の構築 ・各地域で実施されている人口減少対策に向けたワークショップで挙げられた地域課題等について、全てを事業化することは困難なことから、令和2年度特色ある区づくり予算の編成過程において、地域主体の取り組みを支援する新たな枠組みを提案・構築した。</p> <p>※「新潟ハーフマラソン2020」で自治協のブース設置し、江南区や自治協議会のPRを図る予定であったが、新型コロナウイルスの影響により大会が中止。事業実施に至らなかった。</p>
事業の評価 (地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など)	<p>【公共交通に関する勉強会】 ○現状を知ることから始める必要があったため、区バス・住民バスをはじめとした様々な移動手段について、基本的なところから勉強会をスタートした。大江山地区の現状などを共有することで、現状の課題認識をより深めることができた。 ○地域に即した移動手段は様々であり、どのような手法があるのか、引き続き部会で勉強会を継続する。(有識者等による講演なども検討) ○令和2年度には、新たな移動手段の構築に向けて区内で実証実験も予定されていることから、その成果を部会でも共有し、各地域に生かせるよう認識を深める。</p> <p>【人口減少対策に向けた新たな支援制度】 【新潟ハーフマラソンへの協力】 ○大会が中止となったため実施に至らなかったのは残念であったが、検討段階では、前年度の取り組みを踏まえ、よりランナーや来場者がブースに来てもらえるよう見直しを図る計画とした。 ○コミュニティ協議会や区自治協議会の認知度は、まだまだ低いことから、次年度もイベント等を活用した広報活動を継続する必要がある。</p>
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

江南区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	誰でも安心して安全に暮らせるまちづくりプロジェクト 【事業費予算 1,700千円】
事業目的・概要	<p>【目的】 災害発生時などにおいて、具体的にどのような備えが役に立つか、どのような対応が必要かを習得してもらうため、PR活動等を実施する。 また、子どもから大人まで「支え合い」「助け合い」を考えるきっかけを作り、誰もが安心・安全に暮らせるまちを目指す。</p> <p>【概要】 ・バッククッキングパンフレットを活用した防災訓練での講習会や、防災グッズ等を配布 ・助け合い絵本の横展開と活用 ・地域の茶の間パンフレットの作成</p>
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p><バッククッキングの講習会、レシピパンフの作成・配布> 地域の防災イベントの場を借りて、被災した際の具体的な知識として「バッククッキング」を紹介し、併せてレシピ等の配布を行った。 ○開催日等: 令和元年10月6日 ○参加人数: 約400名(大江山合同訓練) ○内容等: バッククッキングによるごはん・親子丼の試食調理及びレシピ等の配布</p> <p><災害・防犯用グッズの作成・配布> 災害・防犯用グッズとしてLEDライトを作成し、来年度開催される地域での防災訓練などで配布する。</p> <p><助け合い絵本(紙芝居バージョン)の作成> 親子・家族のコミュニケーションの中から、子どもも大人も「支え合い」「助け合い」を考えるきっかけのために、江南区親善大使を登場人物とした小学校低学年向けの紙芝居を製作した。 ○配布先: 区内図書館、保育園、ひまわりクラブなど</p> <p><地域の茶の間パンフレットの作成> 自分の家の近くの茶の間はどこか、いつ開催しているのか、茶の間を立ち上げたいがどうすればよいか分かるパンフレットを江南区5地区ごとに作成した。 ○配布先: 各地区ごとに全戸配布、支えあいの仕組みづくり会議など</p>
事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など)</small>	<p>《災害時に役立つ調理方法を紹介するパンフレットの作成や、防災グッズ等を配布》 ○実際に作ってもらい、食べてもらうことで、バッククッキングの周知が図れた。 ○レシピを配布することで、手軽に実践できることが伝わり、各家庭などで「作ってみたい」等の声をいただいた。 ○防災イベントの会場としたことで、関心の高い方が多く見受けられ、効率的にPRできた。</p> <p>《助け合い・支え合い絵本(紙芝居バージョン)の製作》 ○支えあいのしくみづくり会議や紙芝居読み聞かせのボランティアさんなどと意見交換を行うことができ、様々な視点を取り入れることができた。 ○江南区親善大使を登場人物とすることで、子どもにも親しみやすい内容となった。</p>
備考	・部会メンバーの地域や活動とリンクしてより良い事業となった。

区自治協議会提案事業 事業評価書

江南区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	子ども達の声を活かす地域”未来”プロジェクト 【事業費予算 1,500千円】
事業目的・概要	【目的】 これまで小学校単位で開催してきた「子ども会議プロジェクト」で出された、子ども達の声を活かす方策を検討し、地域との協働を視野に事業化する。 【概要】 「きれいなまちにしたい」「いろんな地域の人と友達になりたい」という子どもの声から、「きれいなまちづくり運動」と「小学生フロアカーリング体験交流会」を実施。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	◎きれいなまちづくり運動(協力) 小学生と一緒に、地域を花できれいに飾る。子ども達と大人が協力して作業することにより、地域が花につつまれる喜びを共有し、地域への愛着心や環境保全意識の向上にもつなげる。平成27年度に区自治協議会(環境・教育部会)で実施した取り組みを、翌年度から地域が主体となり実施。今年度も共催の形をとり、協力して取り組んだ。 ○草花の植え方や花について学習したあと、プランターや花壇に花苗を植えた。参加者全員 で感想を話しながら昼食を兼ねた交流会。 ・日時:令和元年6月15日(土)10時~12時30分 ・会場:亀田地区コミュニティセンター ・参加者:132人(児童・保護者等108人、スタッフ24人) ◎小学生フロアカーリング体験交流会 ○区内の小学生が一堂に集まり、フロアカーリングや昼食会を通じて交流を深めた。 ・日時:令和元年12月14日(土)10:00~13:30 ・会場:亀田市民会館 ・参加者:78人(児童63人、スタッフ15人)
事業の評価 (地域課題の抽出方法や企画立案の評価、事業の公益性・実効性・効率性の評価など)	○環境・教育部会で始めたことが、地域が主体となって自治協-地域-学校が協力しあう事業としてつながったことで、地域の力を活かしたまちづくりの推進に貢献できた。 ○親子だけではなく、地域の人とも交流ができ、参加者からは好評であった。 ○小学生フロアカーリング体験交流会では、他地区の小学生同士が交流でき、友だちもできて楽しかったとの声が多くあがった。昨年度よりも開催時期を早め、会場を亀田市民会館としたことで、亀田地区の小学生の参加者が増え、全体の参加者も増加した。チームで協力する中で絆や交流が生まれ、良い取り組みであった。 ○送迎バスを用意したことで、多くの地域から参加者が集まり、よい交流となった。今年度の内容を踏まえて、次年度以降も継続していきたい。
備考	

(※令和2年度 江南区事業評価書は令和3年3月中に確定)

秋葉区自治協議会（第7期）を振り返って

秋葉区自治協議会会長 金子 洋二

1 はじめに

第7期の秋葉区自治協議会は1号委員11名、2号委員11名、3号委員8名の計30名体制で活動を行ってきました。3号委員の内公募委員が4名いること、子育て世代の女性委員が複数名いること、4つの部会が各部会長の下に結束し、実際に地域の中で主体的に活動していることなどが特徴として挙げられます。また、委員には部会毎に色違いのアキハスムプロジェクト・オリジナルポロシャツが支給され、会議や活動の際はユニフォームの様な感覚で着用を励行するなど、チームビルディングの上でも特色ある取組みをしています。

第7期秋葉区自治協議会では、第6期まで積み上げられてきた成果の上に立ち、自らの役割として以下の3点を掲げて活動を進めてきました。

- ・市町村合併により生じた市民自治における意思決定のギャップを埋める。
- ・政治的中立の立場から、市政・区政に対して言うべきことを言い、やるべきことをやる。
- ・秋葉区住民の知恵を集め、未来を拓く実験を先駆的に行う。

こうした取組みの成果として、全体的には活発な議論と地域内での活動を通し、住民が主体となった秋葉区のまちづくりに貢献ができたものと考えています。

2 取組内容・成果・課題

(1) 全体会について

ア 定例会議

毎月の定例会議では、常に活発に意見が交わされ、議事が予定した時間内に収まらず、議論が白熱することがしばしばありました。その対策として、意見が多く出そうな議題がある場合には予め書式を用意して事前に意見を募ったり、必要に応じてワークショップの手法を用いたりして意見集約を行いました。時には区役所の会議室を離れ、各地区のコミュニティセンターを巡回する形で会議を行うことにより、秋葉区の多様な資源や地区毎の取組みを意識した議論につなげることができました。

このように、定例会議を通して多くの「住民の声」を行政に届け、またそうした声の多くを区政に反映していくことができたものと考えます。また、会議以外にも秋葉区選出市議会議員との懇談会を行うなど、交流を通じた住民意見の発信に努めてきました。

一方で、会議時間が慢性的に超過しがちであること、発言をする委員がやや固定化される傾向があること、委員によっては職務の関係で会議への出席や事業への参画が難しいことなどが克服すべき課題として挙げられます。

イ 委員研修会

令和元年度の委員研修会では、区自治協議会提案事業の内容を全委員が参画する形で再構築することを目的に、ワークショップ形式のアイデア抽出とそこで出された意見の集約を行いました。その結果を反映し、極めて実効性の高い各種事業を精力的に実施することができました。

令和2年度の委員研修会では、本格的なデジタル化時代の到来に備え、リモート会議の実施やウェブによる効率的な情報共有を視野に入れた研修会を開催しました。

ウ 地域課題の明確化と解決へ向けて

新型コロナウイルス感染症の流行により、新たな地域課題が発生することが予想されます。また、そうした課題は従来のものとは違い容易に把握できないことが懸念されることから、区内の公共施設やコミュニティセンターなどに「新型コロナウイルスの影響に関する意見箱」を設置すると共に、区自治協議会のホームページ上でもアンケートの窓口を開設して区民の声を集める取り組みを行いました。

さらに、令和2年度に予定していた「秋葉区民幸福度調査」は、計画通りの実施はできなかったものの、委員有志による企画会議を開いて質問項目等の整理を行い、来年度の実施を目指して準備を進めました。この調査を通して、秋葉区で暮らすことの幸せとは何か、さらには秋葉区のまちづくりのために解決すべき課題は何かを明確にし、区政および市政への提言として発信すると共に、区自治協議会の事業運営にも反映させていきたいと考えています。

(2) 部会・提案事業について

ア 第1部会

第1部会は、環境、産業、観光、商店街の活性化を所管する部会です。

これらをテーマとしたまちづくりを推進するため、前期に引き続き「課題解決きらめきサポートプロジェクト」を行いました。住民からの具体的な事業提案を公募して官民協働で実施することにより、地域の人財を発掘すると共に活動の進化をサポートしてきました。第7期では以下の9事業を採択・実施しま

した。

【令和元年度】

- ・土づくりワークショップ
- ・新津川ふるさと還りプロジェクト
- ・秋葉山分岐点案内図設置事業
- ・秋葉ひなめぐり

【令和2年度】

- ・秋葉山地区MTBコース作成
- ・防災カードの作成、配布及び活用のための防災講習会等の開催
- ・「在郷町小須戸ひな・町屋めぐり」2021
- ・新津の大庄屋 桂家（仮称）の出版
- ・鉄道のまちにいつ ひなとお宝巡り

イ 第2部会

第2部会は、防犯・防災、健康、福祉、住環境を所管する部会です。

第7期では以下の三つの事業に取り組みました。

【大いに笑い、脳を活性化して認知症予防】

楽しく体を動かし、大きな声で歌うことにより、自分自身で脳と体の健康を保ち、認知症を予防することを目的に「笑って、歌って、みんなで楽しく健康づくり」（笑いヨガ・合唱）を開催しました。

【地域と福祉施設の連携づくり】

区自治協議会が、地域との連携を求めている福祉施設と地域とのつなぎ役となり、情報交換・意見交換できる場を設けることで、災害時に顔が見え協力し合える関係づくりに取り組みました。

【公共交通利用促進】

令和元年度は区自治協議会委員と区内交通関係機関・団体とで構成する秋葉区地域公共交通検討会議を開催し、秋葉区生活交通改善プランの改定について協議しました。

令和2年度は地域ニーズの把握を目的とした調査の実施へ向けて準備を進めました。また、区内の公共交通情報を発信し、利用促進を図るため、区バス・住民バス及び区内を運行する路線バスのルート・ダイヤや、新津駅を発着する電車の時刻表等を掲載したガイドを作成・発行しました。

ウ 第3部会

第3部会は、男女共同参画、教育、文化、スポーツを所管する部会です。

第7期は次世代を担う子どもたちが秋葉区の特徴・伝統を体験し地域への興味・関心を醸成することに主眼を置き、「あきは子ども大学」を二カ年度にわたり実施しました。

【あきは子ども大学カリキュラム】

- ・新津鉄道資料館 & 総合車両製作所見学
- ・まが玉づくり体験、古津八幡山遺跡探索
- ・秋葉区の食材をつかった親子クッキング
- ・小須戸まちめぐり & 豆菓子工場見学
- ・陶芸体験と新津工業高校見学

エ 広報部会

広報部会は、上記3つの部会を横断的につなぎ、区自治協議会の活動と秋葉区の魅力を発信することを担う部会です。具体的な取組みとしては、地域に根差したコミュニティFMを活用し、毎月第2水曜日（再放送第2土曜日）の広報番組「あきはくはつものがたり」の制作と委員自らの出演、2年間で600本のスポットCMの放送を行いました。

また、秋葉区自治協議会かわら版「あきはくはつものがたり」を編集・発行しました。

以上に記載の通り、秋葉区自治協議会では各部会が連携し合いながら役割分担をし、明確な目標の下に活発な活動を展開してきました。各々の事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

3 おわりに

人口減少と高齢化により地域の活力低下が進行する中、長引く感染禍による将来への不安がさらなる影を落とし、地域を取り巻く課題はさらに多様化・深刻化していくことが予想されます。こうした時代の変わり目に立ち、区自治協議会においても、次の時代を見据えた真剣な議論と迅速かつ確かな行動が求められていると言えるでしょう。

幸い、秋葉区は特色ある豊富な地域資源に恵まれた土地です。そのポテンシャルを引き出し、市民の主体性と官民の連携を基盤としたまちづくりを進めることにより、さまざまな課題解決の道を明らかにしていくことが私たち秋葉区自治協議会の使命であると考えます。そのためには、引き続き多様な世代と多様な立場の委員が行政も交えて忌憚なく意見を交わせる場をつくっていくことが肝要です。

また、新しい時代とは、改めて「幸福」とは何かが問われている時代でもあると考えます。次年度実施する「秋葉区民幸福度調査」では、秋葉区民が享受する幸福の材料とは何か、さらには現在足りないものや衰退を危惧すべきものは何かが明らかになるはずです。第8期秋葉区自治協議会のメンバーには、その結果から次のアクションを見出し、幅広い協働を通して実現に向けた行動を起こしていただくことを切に望みます。

最後に、秋葉区自治協議会の良き文化である「活発な議論と行動」が次期に引き継がれ、さらに進化を遂げていくことを願い、第7期の振り返りとします。

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会
(第1部会)

区 分	内 容
テーマ・事業名	課題解決きらめきサポートプロジェクト 【事業費予算 1,600千円】
事業目的・概要	「きらめく秋葉区」に向けたまちづくりのために、地域コミュニティの活性化や福祉、防災、文化振興など、様々な地域課題の解決につながる取り組みを協働で実施し、「きらめく秋葉区」に向けた、まちづくりを目指す。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>(1) 土づくりワークショップの定期開催による生ゴミ減量 【にいがた農えん隊】 開催日：8月30日 参加者14名、11月8日 参加者6名（+こども1名）、3月6日（中止）</p> <p>(2) 新津川ふるさと還りプロジェクト 【新津東部コミュニティ協議会】 開催日：10月13日 参加者 ワークショップ約150名 点灯式300名以上</p> <p>(3) 秋葉山分岐点案内図設置事業 【小口遊林倶楽部】 案内図2枚、方向表示板5枚</p> <p>(4) 地域の宝探し 秋葉ひなめぐり 【小須戸コミュニティ協議会】 実施期間：2月1日～3月8日（コロナウィルスにより3月4日～8日中止）</p>
事業の評価 (地域課題の抽出方法や 企画立案の評価 事業の公益性・実効性・ 効率性の評価など)	<p>(1) 土づくりワークショップの定期開催による生ゴミ減量</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰も簡単にできる土づくりから野菜づくりを体験することによって、生活の中に「農」を取り入れようという関心をもつ人を増やす。家庭で出る野菜くずを使った「土づくり」を学び、実践のための「野菜栽培キット」を持ち帰ってもらい、野菜を育ててもらおう。その成功体験から、継続して次の実践に移っていく仕組みを作る。 ・過去に土づくりを体験している参加者が多数おり、子どもを連れた参加者が多かった。既に幼稚園などで実践して体験している子どもも居て、参加者の多くが幼稚園などでの指導や体験農園、アグリパークでの作業、農えん隊の活動に興味を持っており、中にはワークショップ当日に農えん隊に加入した人もいた。

(次頁に続く)

(2) 新津川ふるさと還りプロジェクト

・秋葉区出身の彫刻家・原田哲男さんの協力を得ながら、新津の歴史文化を素材とした灯籠を、次世代を担う子どもたちと共につくり、新津川のほとりに並べ、「秋のふるさと風物詩」としての賑わいづくりを目指す。

・当日は、台風の影響で新津川で灯籠を流すことはできず二小体育館での実施となったが、原田哲男さんがデザインされた素晴らしい大きな灯籠と、当日参加された方達の作成された300個を超える灯籠と色とりどりのキャンドルに灯りを点灯することができた。

・秋葉区に住む赤ちゃんから子ども、学生や若い人たち、パパママ、おじいちゃんおばあちゃんまで、みんなで楽しめるような事業を行ってほしいと思う。

【課題】

・応募団体とのかかわりがうまくなかった点が見られたため、自治協と応募団体が方向性を共有し、採択時点で協働を理解してもらい連携をとる事が必要と思った。

(3) 秋葉山分岐点案内図設置事業

・秋葉山から続く小口の里山には数々の歴史的・文化的遺産があり、近年では遊歩道の整備や間伐、除草などにより、秋葉山を訪れる人が年々増加している。

・より多くの人を秋葉山に呼び込み、気軽に安心して山歩きをしながら歴史を学び、健康増進につながるような身近な秋葉山にするため、案内標識等が必要。

・地区の歴史と自然を生かし地域活性化を図る事業を実施し、所期目標を達成できた。

【課題】

・今後、看板・方向指示標識を活用し、散策ルートを如何に区民、市民等に紹介し、この事業成果を活かしてことが大切と思われる。

(4) 地域の宝探し 秋葉ひなめぐり

・これまで小須戸地域の独自性豊かな冬期間のイベントとして実施しており、4年目となる今回は小須戸地区だけでなく新津地区でも実施した。

・小須戸地区では本町通り商店街など約30か所に展示、新津地区では「鉄道の街にいつ ひな・お宝めぐり」と題し、商店街の約20か所で貴重なお宝を展示した。

・地域内外から多くの参加があり、地域のおもてなしの意識も生まれてきた。

【課題（全体）】

・きらサポの事業が、1つの提案団体のための事業ではなく、市民一般に浸透していく事業であることが大切である。

・そういう意味で、事業の方向性や関与した（あるいは、関与する）人数などもこの事業の大切な要素である。

・今後採択するときの基準として、これらの要素を加えるべきである。

・協働で実施することにより、様々な意見が出され活動の幅を広げることにつながった。

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会
(第2部会)

区分	内容
テーマ・事業名	大いに笑い、脳を活性化して認知症予防 【事業費予算 545千円】
事業目的・概要	楽しく体を動かすことで、自分自身で脳と体の健康を保ち、認知症を予防する。自分自身で健康を保つ方法を講演から学び、また、楽しく体を動かし、大きな声で歌うことにより、脳の活性化を促す。参加者が一緒になって行うことで、その効果が増すことが期待される。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	「笑って、歌って、みんなで楽しく健康づくり」 開催日時 令和元年11月28日(木) 午後1時30分～ 会場 秋葉区文化会館 参加者数 253名 内容 第1部 秋葉区感謝の集い 第2部 笑いヨガ(講師:村山 昭子 氏) 第3部 合唱(ピアノ演奏:阿部 恵子 氏)
事業の評価 (地域課題の抽出方法や 企画立案の評価 事業の公益性・実効性・ 効率性の評価など)	<p>【評価】</p> <p><第1部 感謝の集い> ・第1部として「秋葉区感謝の集い」を開催したため、自治会長などの参加をいただくことができ良かった。また、受章者とイベント参加者、双方ともに地域の様子を知ることができたことは良かったのではないかと。</p> <p><第2部 笑いヨガ・第3部 合唱> ・笑いヨガ、合唱等参加型企画。参加者には自然な同調参加を感じた。 ・笑いヨガは、講師の導きで全員が気持ちよくリズムをとって体を動かし、会場の空間に笑いが弾け、心身ともリフレッシュした。 ・他の区で活躍している講師から、地元の大きな会場で実施することができて良かった。 ・笑いヨガを多くの方たちに体験してもらい、今後の認知症予防に機会になっていくことが期待できる。 ・笑いヨガでは、会場の皆さんがとても素直に反応されていて、楽しそうだった。 ・笑いヨガは、笑うことによる身体の変化が実感でき、気持ちの高揚にも効果があり、好評だったと思う。 ・「秋葉区感謝の集い」受章者が登壇し、一緒に合唱する様子はとても好評だった。 ・合唱では、ピアノの生演奏で懐かしい歌をステージと会場が一つになって歌えて良かった。 ・笑うこと、歌うことで健康が維持できることを参加者から実感していただいた。 ・多くの方に来場していただき、楽しく笑い、歌い、体を動かしていただけたので、非常に有意義な会になったと思う。 ・合唱も昨年に引き続き好評だった。ピアノ演奏も素晴らしく、進行のリードと男性委員との掛け合いもとても良く、参加者の歌声を引き出していた。また、委員全員が一つになって進行できたことが良かった。 ・合唱の歌詞を、紙で配布するのではなく、スクリーンに映し出すことで、みんなが顔を上げて、楽しく歌えた。</p>

(次頁に続く)

	<p><運営・全体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・笑顔で帰られる参加者の姿が結果だと思う。このプログラムは十分に楽しんでもらえたと思う。 ・部会メンバーがタイムスケジュールをもとに阿吽の呼吸でそれぞれの役割を担い、スムーズな運営ができ、メンバーとの一体感と達成感を感じた。 ・「イベント開催」の大きな特徴は、会場全体が一つになり、喜びを共有すること。家に一人でいたのでは「共感・高揚感」は得られない。その意味で外出促進事業の目的は果たせたと思う。「きょういく(今日、行くー教育)ところがある」「きょうよう(今日、用ー教養)がある」ことの有難さを高齢者は理解している。 ・高齢化社会の中、認知症予防等の健康維持は共通する課題である。今回の事業は手軽に誰もがすぐできる知症の予防であり、実効性、効率性が極めて高いと評価できる。
	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加された方は、自分自身の健康管理に関心があり、また、常日頃から体操や趣味の活動を積極的に取り組んでいる方が多いように感じた。参加されていない方に如何に関心を持たせ、どう広げていけるのか、地域の茶の間などで取り組めるようPRしていくことが必要ではないか。 ・このイベントを期待しておられる方が相当数おられることを感じた。リピート率は高いが、より多くの方から参加してもらえるよう企画・工夫の検討が必要。 ・数年続いた事業で、今回で終了するが、認知症予防という目的は、小規模の地域の茶の間等で継続的に取り組んでいくことが求められる。 ・アンケートを手作業で集計するのは非常に大変な作業だと思われるので、他に効率の良い方法について検討していけると良い。 ・元気なお年寄りが多く参加していると感じたが、実態はどうか。今後の活動材料になるので、アンケートをとるならば、健康度チェックをしたらどうか。 ・外出促進、支援が目的であれば、秋葉区には映画館がないので、「アキハ・シネマ」等で話題になった映画の上映会も良いのではないか。 ・外出促進、健康寿命延伸をテーマとしての開催。同内容、企画のイベントが他団体でも開催されている。行政が企画する事業は、費用対効果をふまえ、横の連携調整等を考える必要があるのではないか。 ・似たような事業が短期間のうちに実施されているので、実施日の変更か内容の変更を。 ・高齢社会とあって、「健康づくり」「認知症予防」「見守り活動」「介護について」等々、市役所・区役所・社協・コミ協その他各機関から同じようテーマが企画されている。そのどれもが、高齢者にとっては貴重な情報源ではあるが、企画のタイミングが集中することがある。どこかの機関でコーディネートしてもらえないものか。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会
(第2部会)

区 分	内 容
テーマ・事業名	地域と福祉施設をつなぐ防災時のサポート 【事業費予算 260千円】
事業目的・概要	災害時に協力し合えるよう、地域と福祉施設の顔の見える関係づくりを目指す。 自治協議会がつなぎ役となり、地域と福祉施設が災害時に協力し合えるよう避難の仕方や避難所の運営などについて情報を共有する。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	事業化に向けての情報収集 ①すでに、福祉施設と連携して活動している地域(自治・町内会、自主防災組織など)はあるのか確認する。 ②秋葉区社会福祉協議会に、区内に福祉施設を構える社会福祉法人を照会し、地域と福祉施設との関わりについて意見をもらう。
事業の評価 (地域課題の抽出方法や 企画立案の評価 事業の公益性・実効性・ 効率性の評価など)	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時における相互連携協定を締結しているコミュニティ協議会や防災訓練に福祉施設職員が参加している地域を確認できた。 ・災害時に地域と福祉施設が協力し合える関係づくりを自治協議会が仲介するということは大変有意義な活動だと思う。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋葉区社会福祉協議会において、地域と福祉施設との連携に関するアンケート調査の計画があり、その調査結果を受けて、来年度に地域選定を進めていく。 ・福祉施設設置区域の自治会・町内会は施設との連携望んでいるだろうか？ ・地域へのアクションは慎重に進めなければならない。 ・地域と福祉施設との情報の共有の仕方について、災害時に円滑に協力し合えるよう普段からの連携強化ができるとよいと思う。 ・地域と福祉施設がどのような関係にあるのか調べてから動くべき。地域とすでに連携が測れている施設には不信感を持たれたようだ。 ・秋葉区社会福祉協議会と協力しながら、自治協議会として果たすべき役割を詰めていきたい。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会
(第2部会)

区分	内容
テーマ・事業名	生活交通 【事業費予算 201千円】
事業目的・概要	秋葉区全体の生活交通について協議する。 秋葉区地域公共交通検討会議を開催し、秋葉区生活交通改善プランについて協議する。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回秋葉区地域公共交通検討会議 開催日: 令和元年12月3日(火) ・第2回秋葉区地域公共交通検討会議 開催日: 令和2年1月15日(水)
事業の評価 (地域課題の抽出方法や 企画立案の評価 事業の公益性・実効性・ 効率性の評価など)	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理想と現実のギャップに頭を抱えつつ、それでも今後3年の計画が示せたことは評価できる。 ・検討会議構成員である警察署から運転免許返納の状況を聞けたり、交通事業者の取り組みなどを聞いたことは有意義だった。 ・2回の検討会を行ったが、具体的な取り組みには至っていない。しかし、公共性がある重要な課題のテーマなので、実績の評価は低いが、継続して取り組む必要があります。 ・公共交通に関する問題は、将来に向けて自分自身の問題であり、地域の問題であるという意識が薄い状況である。 ・山の手住民バスは全戸配布アンケート実施をし、スタートした結果、収支率が悲しい。住民の利用を求めるには実態を丁寧に周知する必要があると思った。 ・4つの課題を、3つの柱に再構築し、それぞれ具体的な施策を示したことにより、何のために何をいつまでにやるのかが明確になった。 ・地域や関係団体との連携・協力体制の構築を柱に取り上げたことは、地域と協働で取り組むという行政の強い意志を感じた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミ協ごとに環境が違うので、一律ではいけない感じ。まずは、自地域の現状を把握し、あるべき姿を模索したい。 ・地域の方々や隣近所の方々と相乗りできる環境づくりが必要と思う。⇒地域づくり ・タクシーなど利用について、理解するように勉強が必要。そのうえで、啓発が必要。 ・人口が少なく交通機関の利便性が低い地域での大きな課題であるが、収益性・利用率・利便性の向上と停留所の整備等が課題と思う。 ・住民バス運行、デマンドタクシーなど社会実験運行を実施したが、住民の意向が十分に反映されていないため、成功例は少なく、具体的な検討が困難である。 ・公費に頼らない仕組みを住民でつくらないといけない。 ・料金の問題、工程の問題、時間の問題、乗車の目的は？駅、施設、買い物、通院。区間設定してモニタリングしてはどうか。 ・地域や関係団体との連携・協力体制の構築は地域ごとの温度差や切実さに大きな差がある。ボトムアップの機運を高めるために、先行例を学んだり、地域との密接な話し合いが大切と考える。
備考	

令和元年度 区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会
(第3部会)

区分	内容
テーマ・事業名	あきは子ども大学 【事業費予算 1,000 千円】
事業目的・概要	次世代を担う子どもたちに、秋葉区の特徴や伝統を継続的に体験してもらい、広く周知することで、地域への愛着や興味関心をさらに高めるとともに、未来につながる主体的な学びの機会となるよう実施する。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>対象児童 秋葉区内の小学生</p> <p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第1回 オリエンテーション、新津鉄道資料館 & 総合車両製作所見学 <ul style="list-style-type: none"> ・日 時 9月28日(土) 9:30～15:30 ・会 場 新津地区市民会館、新津鉄道資料館、総合車両製作所新津事業所 ・参加児童 18名 ●第2回 弥生の丘展示館見学、まが玉づくり体験、古津八幡山遺跡探索 <ul style="list-style-type: none"> ・日 時 10月19日(土) 10:00～14:30 ・会 場 弥生の丘展示館、古津八幡山 ・参加児童 19名 ●第3回 秋葉区の食材をつかった親子クッキング体験、修了式 <ul style="list-style-type: none"> ・会 場 新津地区健康センター ・参加児童 19名 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第1回 オリエンテーション、小須戸まちめぐり & 豆菓子工場見学 <ul style="list-style-type: none"> ・日 時 2月22日(土) 9:00～12:00 ・会 場 新津地区市民会館、町屋ギャラリー薩摩屋、内山藤三郎商店 ・参加児童 23名 ●第2回 金津里山での陶芸体験(中止) <ul style="list-style-type: none"> ・日 時 3月7日(土) 13:30～15:30 ・会 場 金津焼 押味窯 ●第3回 秋葉硝子細工づくり & 新津の魅力かるた体験、修了式(中止) <ul style="list-style-type: none"> ・日 時 3月21日(土) 13:00～16:30 ・会 場 秋葉硝子、秋葉会館
事業の評価 地域課題の抽出方法や 企画立案の評価 事業の公益性・実効性・ 効率性の評価など	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加学年を広げたため、これまでは少なかった兄弟姉妹での参加が増えて良かった。 ・普段は一緒になることのない他校の児童と交流できるいい機会となった。 ・学校での地域学習の時間が減っているため、それを補完できたのではないかと。 ・初回の集合の際には児童も保護者も心配そうな顔をしていたが、オリエンテーションの工夫や楽しい体験活動により、帰るときには笑顔一杯になっていた。 ・「秋葉区の宝」について、それぞれ専門の方の協力でしっかりと学ぶことができた。 ・子どもたちにとって区内の全く知らない地域のことを学べ、大人にとっても同様に勉強になることが多い事業だった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調整に時間が掛かったことで後期の開催時期が遅くなり、結果として第2、3回を中止することになってしまった。 ・今でもあきは子ども大学のことを知らない先生が多い。校長先生から直接先生方に伝えてもらうなど、もっとアピールすることはできなかったか。
備考	

令和元年度 区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会
(広報部会)

区 分	内 容
テーマ・事業名	コミュニティFMを活用した秋葉区自治協議会PR事業 【事業費予算 950 千円】
事業目的・概要	秋葉区ならではの取り組みとして、秋葉区のコミュニティFMを活用し、自治協の活動や自治協かわら版「あきはくはつものがたり」のPRを行う。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>■FM版「あきはくはつものがたり」 毎月第2水曜日の12時20分から、30分番組の放送 (再放送は同じ週の土曜日9時から)</p> <p>■スポットCMの放送 20秒×5種類 8月～3月：合計放送本数303本</p> <p>■かわら版「あきはくはつものがたり」を活用したPR 3号/年(運営事業費) 第22号：R1.7.15発行、第23号：R1.10.15発行、第24号：R2.3.15発行 各号29、000部発行し、全戸配布(自治会経由)のほか公共施設等に配置</p>
<p>事業の評価</p> <p>地域課題の抽出方法 や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・ 効率性の評価など</p>	<p>■コミュニティFMを活用 【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域密着のコミュニティ放送は、地域の抱える課題を区民の声として伝え、協働の要として地域のまちづくりやより良いくらいを目指す有効な広報手段である。 ・地元放送局を利用したPRにより、身近な情報を秋葉区民に届けることができた。 ・委員が出演することで、身近な人たちを通してリスナーを増やすことになり、自治協の取組み内容の理解につながった。また、各部会員が主体的に取り組む提案事業の紹介を自分たちで行うことで、事業及びどんなメンバーがどのような活動をしているのか、区民の関心を高めることに繋がった。 ・コミュニティFMと「かわら版」とで、それぞれに番組や記事をPRし合ったことで、相乗効果があった。 ・自治協議会の活動内容、今年度の実施事業を区民に紹介できたと推測する。 ・限られた放送時間の中で効果的なPRが出来ていると感じる。 ・スポットCMに子ども達出演したことで、若い世代の親子が興味をもち、聴いてもらえる機会ができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本会議で行政から報告される事項をセレクトし、出演する委員がいち早くお知らせすることで、区民に本会議の様子を伝達する場としても活用したい。 ・聴衆率をあげるため、スポットCMでドライバーへ呼びかける工夫が必要ではないか。 ・イベント告知だけではなく、提案事業会場の中継や体験談などを放送する事ができれば、生の声として参加意欲が上がるのではないか。 ・FM新津の聴取者の数や状況を把握することが難しいので、効果が確認できない。おおよそでも推定できる方法を考案したい。 ・対象者を世代別に分けて、放送を聞いているのかという調査が必要かと思われる。 ・短いCMでどこまで知らせることができるか、全く知らない人が聴いても分かるように伝えるにはどうしたらよいか。

(次頁に続く)

	<p>■かわら版「はつものがたり」の発行</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすく、文字数の少ない「かわら版」を目指した。写真を多くして斜め読みでも目に飛び込んできて興味を持てるよう工夫した。 ・イベントだけを掲載するのではなく、秋葉区内の温泉施設やスポットの案内ができ、情報収集に役立つものが出来た。 ・委員の活動内容、活動状況を写真付きで紹介でき、区民の関心を高めることに役立ったと思う。 ・各委員から原稿依頼を快く引き受けていただき、編集の上でも有難い。 ・これまで通り、情報発信を継続して自治協議会の活動を周知していきたい。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働の要として位置づけられた区自治協議会に求められるのは何かを伝えることができるような企画、トップ会談などを検討したい。 ・秋葉区の良いところや問題点、こんなことを課題にしているという自治協の活動そのものが伝わりづらい。 ・イベントの報告に偏っているのではないか。もう少し早く発行し、イベント告知に使えるらよいのではないか。 ・若い世代の閲覧者を増やすために、SNSも有効に活用して、文字よりも絵や写真の多い紙面となれば良いと感じる。 ・発信のプロ（業者でも識者でも）の力を借りて、より有効な発信方法も検討したい。 ・自治会、町内会を通じて各戸配布しているが、どの程度の区民にどのように読まれているか把握する必要があると思われる。 ・
備考	

(※令和2年度 秋葉区事業評価書は令和3年3月中に確定)

南区自治協議会（第7期）を振り返って

南区自治協議会会長 小田 信雄

1 はじめに

第7期の南区自治協議会は、改正された区自治協議会条例に則り選出された委員30名の活発な議論と区民の熱気あふれるまちづくりへのエネルギーに支えられスタートいたしました。

旧来の地方自治法の規定に基づく区地域協議会としての位置付けから、新潟市の附属機関の一つとして市民や区民の生活を会議に提起し、課題を明確にし、対策や解決策を議論し、その課題実現のために行政と協働する、その要としての役割を果たしていくという大きな目標を掲げての出発でありました。

第6期から取り組みを始めた「南区まちづくり活動サポート事業」では、古い一枚の写真から地域のエネルギーを引き出した「白根子行進曲」や伝統芸能を児童に継承させる支援事業など、新しい芽生えがあちらこちらに感じられ、会議の討論も本格化し熱を帯びてきた矢先、令和2年春先から新型コロナウイルス感染症の流行により大きな足踏みを余儀なくされてしまいました。年度初めは全体会を書面開催による意見の聴取や議決にせざるを得ない状況になりました。その後、事務局の一部でリモート方式を採用し、ソーシャルディスタンスを確保するために会議室のレイアウトを変更するなどさまざまな工夫を加えながら会議を開催し、南区の課題に取り組んでいるところです。

このコロナという未曾有の困難に直面している区自治協議会ではありますが、委員の熱意が議論の各所に発揮され、いくつかの新たな成果を見出した事も評価しなければなりません。

議論に不慣れであった南区で、議論することの大切さが定着し、会議の雰囲気ガラリと変わりました。一方、区組織目標への評価も定着し、区長に新たなまちづくりを提言し、新たな方針に変化を促したこともいくつかありました。嬉しいことに今期は、通常の行政評価の視点から、市民目線へ視点を変えることにより、さらに精度の高い評価にすべきとの画期的意見が続出し、その方向へ大きく舵を切り始めています。数字による評価から、市民の体感的感覚の評価も加えていくことの重要性に気づき始めました。

また、この困難と、新潟市の諸般の情勢が、市民の生活とまちづくりに対して行政の力のみでの達成は明らかに限界であり、地域や市民との「協働」が不可欠の時代になったことも立証してくれました。南区自治協議会の掲げる「自治」と「協働」と「分権」の旗印が今後ますます重きを増すことは確実です。このことが地方自治

法252条の20第7項の規定から離れた新しい区自治協議会の進むべき道であり、南区の「自治」の深化にとって「南区自治協議会」の果たす役割は今後ますます大きくなっていきます。

2 取組内容・成果・課題

(1) 全体会について

ア 会議運営方法の見直し

第6期までは、発言の際、挙手、起立をして行っていました。しかし、起立をすることが困難な方がいること、また発言しやすい雰囲気をつくるため、第7期からは着座のまま発言することにしました。

また、全体会で事務局が報告・連絡する事項については、1項目ごとに報告・連絡をして質疑を受ける方法をとっていましたが、報告・連絡事項を全て説明してから一括して質疑を受けた方が、スムーズな会議運営が行えるのではないかという意見が委員の中からありました。

このような意見を踏まえ、令和元年度7月の全体会から報告・連絡事項は全項目まとめて説明し、その後、質疑を受け付けることとしました。このことにより、時間が短縮できるだけでなく、会議をスムーズに行うことができました。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止を図るため、会議を必要に応じて書面開催にし、事務局の一部をリモートで開催するなどして感染症拡大防止に努めました。

それぞれの地域や団体における課題等を持ち寄って発言していただき、区民等の意向を行政運営に反映させるような雰囲気づくりを行っていくことが、今後の課題です。

イ 南区自治協議会委員研修会の開催

市内全区の研修会に加え、区独自研修として西蒲区と合同で委員研修会を開催しました。

令和元年度は、「子ども食堂について～その背景と現状～」をテーマとして新潟県立大学人間生活学部健康栄養学科 村山伸子教授による講義、また「おひさま子ども食堂の歩み」をテーマとしておひさま子ども食堂 田子幸子氏による事例発表の後、両区の委員でグループごとに意見交換を行いました。

令和2年度は、しろね大風呂と歴史の館を視察後、「コロナ禍における区自治協議会のあり方について」、「第7期区自治協議会の振り返り」などをテーマに意見交換会を行いました。

コロナ禍において、他区がどのように会議や提案事業を工夫しているかなどを意見交換することができ、貴重な機会となりました。

(2) 部会・提案事業について

ア 第1部会

第1部会は、公共交通、防犯・防災、環境、建設、都市計画等の分野を所管する部会です。

第7期では、軌道系公共交通機関のない南区にとって重要な問題である区バス・住民バス・乗合タクシーの利活用について重点的に審議し、第6期に引き続き、高校生や高齢者などの交通弱者からいかに利用してもらえるか、区役所と協働しながら取り組みました。

また、第6期に引き続き、部会の役割検討特別部会の報告書に沿って、南区組織目標の検証を行いました。令和元年度は「区バス利用者数、乗合タクシー利用者数」、「総合防災訓練参加数、自主防災組織全23組織の訓練実施、空き家相談会の回数」、令和2年度は「区バス利用者数、乗合タクシー利用者数（区バス運行支援協賛企業数）」、「総合防災訓練参加数、自主防災組織全23組織の訓練実施、空き家相談会の回数（全14地区での「防災虎の巻」作成・自主防災訓練全23組織の訓練実施・空き家利活用に向けた取組みの実施）」について検証を行い、9月の全体会で検証結果を報告しました。

本部会で取り組んだ主な提案事業は、南区公共交通PR事業、南区防犯・防災啓発事業です。

南区公共交通PR事業では、区バスなどを利用する人にわかりやすい情報紙を作成し、全世帯に配布するとともに、区バスの車内を季節ごとに装飾して区バスに親しみをもってもらい、利用者数の増加につながるよう工夫しました。これらの取組みにより、普段、バスに乗らない子どもたちが区バスに興味を持ち、親も含めたPRにつながりました。

区バスなどの利用が特定の人に偏っている傾向にあるため、これらの取組みを通じて、いかに認知度を高めていくかが今後の課題です。

また、防犯・防災啓発事業では、区内の新小学1年生へ交通安全用反射材を配布するとともに、第5期に作成した「安心・安全ステッカー」を委員の自家用車に貼り付けて“ながらパトロール”を行う「南区安心・安全みまもり隊」の活動に引き続き取り組みました。

イ 第2部会

第2部会は、健康・医療、福祉、教育、地域、男女共同参画等の分野を所管する部会です。

第7期では、南区家族ふれ愛事業と出会いの場づくり事業に取り組みました。

南区家族ふれ愛事業は、家族のつながりを大切に、温かい家庭をつくることを目的として、11月を「南区家族ふれ愛月間」と定め、南区内の小学4年生による絵画展、中学1年生による川柳・標語展を行うほか、映画上映会を開催

し、家族ふれ愛月間の定着を図りました。

出会いの場づくり事業では、少子高齢化対策について重点的に取り組み、定住人口を増やそうと婚活事業に取り組みました。

また、第6期に引き続き、部会の役割検討特別部会の報告書に沿って、南区組織目標の検証を行いました。令和元年度は「ミニブック型集団健診受診者数」、「地域の茶の間設置件数」、「子育て支援リーダーの人数」、「障がい者の販売店舗の数」、令和2年度は「ミニブック型集団健診受診者数（電話による受信勧奨人数）」、「地域の茶の間の設置件数または開催頻度」、「子育て支援リーダーの人数、勉強会の回数」、「障がい者の販売店舗の数」について検証を行い、それぞれ9月の全体会で検証結果を報告しました。

ウ 第3部会

第3部会は、産業、観光、文化・スポーツ等の分野を所管する部会です。

第7期では、南区魅力発信事業と南区スポーツ交流事業に取り組みました。南区魅力発信事業は、南区の魅力を最大限に区内外へ発信し、交流人口の拡大を図ることを目的として部会で検討し取り組みました。

区外からの観光客などに南区の魅力を知らせようと、第6期に引き続き、観光案内看板を増設しました。また、区内の文化資源を掘り起こし、重要文化財旧笹川家住宅や曾我・平澤記念館などの区内の文化施設に観光客を呼び込むため、どのようにしたら良いか効果的な方法などを話し合い、曾我・平澤記念館に建物の魅力も併せて紹介するパネルを設置しました。

そのほか、地域の農業に興味や愛着を持ってもらい、食や農業に対する理解と関心を深める機会とするため、親子農業体験事業や、地元特産農産物を使った料理教室を開催しました。

また、南区スポーツ交流事業は、親子のふれあいの場をつくり、区民の健康づくりの一助となるよう、子どもから大人まで楽しめるファミリーダンスを開催しました。

また、第6期に引き続き、部会の役割検討特別部会の報告書に沿って、南区組織目標の検証を行いました。令和元年度は「重要文化財旧笹川家住宅、しろね大風呂と歴史の館入館者数」、「民間等と協働により開発した新商品数」、令和2年度は「重要文化財旧笹川家住宅、しろね大風呂と歴史の館入館者数（展示替えの実施箇所数）」、「民間等と協働により開発した新商品数」について検証を行い、それぞれ9月の全体会で検証結果を報告しました。

エ 広報部会

広報部会は、広報に関することを所管する部会です。

第7期では、南区自治協議会だよりを各年度3回、計6回発行しました。

区自治協議会委員や部会の活動、地域コミュニティ協議会の先進的な取り組み

などを紹介し、興味を引く紙面づくりに努めることにより、区自治協議会の認知度向上を図りました。

しかし、委員に就任するまで区自治協議会だよりの存在を知らなかったという意見が聞かれるなど、区民に読んでいただける紙面となるよう、さらなる工夫が必要です。

オ まちづくり活動サポート事業

平成30年度から実施している提案事業の一部を区内の地域活動団体から事業募集し、区自治協議会が選定・採択して協働実施する「南区まちづくり活動サポート事業」は、令和元年度は6事業、令和2年度は4事業を選定して事業委託しました。

なお、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、当初、3事業の応募、2事業の採択にとどまったことから10月に再募集を行いました。

また、令和元年度から予算を増額し、地域コミュニティ協議会や地域活動団体から積極的に取り組んでいただきました。

※提案事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

3 おわりに

南区が抱える基本的な構造問題や課題は、合併後も大きく変化しておらず、人口の減少や高齢化については、他の区よりむしろ拍車がかかっています。8区唯一の軌道系公共交通機関をもたないハンディは大きく、区民の移動手段の利便性や生活、産業の発展に計り知れない影響を及ぼしていることは間違いありません。

まちづくりを所管する部会では、その多くの力を区バスや交通問題、にぎわいの創出に傾注しています。区内で完結するという区バスの概念の撤廃や、まちなか循環バスの社会実験から本格運行への移行など、交通弱者に対する利便性の向上に向けて取り組んでいます。

一方、広大な農地を背景に、県内トップクラスの農業生産額、近年増加傾向にある工業生産額など、他の区に誇れる豊かな面もありますが、多くの市民が「働く」、「住む」、「楽しむ」というまちづくり三原則に、合併後のさまざまな取組みが有機的に機能していない問題に気づき始めました。

このような中、地域コミュニティ協議会などの活動や「にいがた南区創生会議」の提言により、交通結節点を軸にした新たなまちづくりの動きが始まり、区自治協議会も新新潟市都市計画マスタープランの改定を契機に、各部会が横断的に総合的なまちづくりへの議論を進めてきました。

区自治協議会の役割と市民が求めている区への期待が、委員や市民の中に次第に明確になってまいりました。会議における検討がそれを物語っています。8区の中

で人口の一番少ない区であるがゆえに議論という自治の最大原則がまがりなりにも定着しつつあると思います。

新型コロナウイルスの嵐は必ずや治まります。今期中今まで以上に高まったこの区自治協議会へのモチベーションを維持しつつ第 8 期区自治協議会に期待いたします。

区自治協議会提案事業 事業評価書

南区自治協議会(全体会)

区分	内容
テーマ・事業名	南区まちづくり活動サポート事業 【事業費予算 2,500千円】
事業目的・概要	地域活動団体と連携することにより今まで以上に効果的な事業展開を図るため、南区区ビジョンまちづくり計画に掲げる様々な地域課題の解決につながる取り組みを、南区内に主たる活動拠点を有する地域活動団体から1事業につき50万円以内で募集して事業委託する。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>◆ふれあい公園イルミネーション事業【白根大通もりあげたい】 12月8日(日)～1月12日(日)までの期間、大通ふれあい公園の駐車場内を電飾や大通小学校4年生児童が作ったペットボトルツリーで飾り、子どもから大人まで楽しめるイベントを開催した。</p> <p>◆新飯田地域活性化プロジェクト・元気な市日計画【新飯田コミュニティ協議会】 7月～8月の夏休み期間中、5・10のつく日に開催される市日に合わせて7回にわたり空き家を開放して地域内外の人が触れ合える居場所をつくった。また、11月10日(日)に特産品を自由に販売できる場の提供として収穫祭を開催した。</p> <p>◆地域史跡文化を理解し、併せて青少年育成事業【庄瀬地域コミュニティ協議会】 地域の史跡、石碑10か所に案内板を設置するとともに、案内板設置場所とその内容について記載したパンフレットを地域内全戸、学校等に配布して広報に努めた。また、11月7日に庄瀬小学校6年生を対象に現地及び教室での研修を実施した。</p> <p>◆旧白根配水塔 国登録文化財登録記念事業【白根コミュニティ協議会】 6月12日(水)に諏訪木保育園児と一緒に配水塔周辺に設置するプランターの花植えを行った。8月23日(金)に長岡水道公園と燕市旧浄水場を視察し、どのように整備活用したり維持管理しているかを学んだ。また、配水塔を訪れる人向けに写真入り看板とベンチを設置した。</p> <p>◆うすいっ子 樽タタキ 復活【臼井地区コミュニティ協議会】 戸石地域に引き継がれてきた子ども樽タタキは、子どもの減少などにより5年前に解散した。これまでの戸石樽タタキの継承を含め、楽曲、振り付け等を新たに作り上げ、臼井小学校児童から希望者を募り「臼井樽砵」として復活した。</p> <p>◆白根子行進曲復活プロジェクト【白根商工会白根支部】 昭和6年の白根大火からの復興を祝い仮装行列を行ったとされる「白根子行進曲」を、10月22日(祝日)に約90年ぶりに復活・再現するイベントを開催した。当日は、猫に仮装した100人を超える参加者が白根本町通りを行進し、仮装コンテストも実施した。また、連携事業として、イベントに併せ白根高校生徒が空き店舗シャッターの色塗りや商品の開発・販売を行った。</p>
事業の評価 <small>地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</small>	<p>○ 採択されたそれぞれの団体から、南区の活性化につながる個性あふれる事業を展開していただくことができた。</p> <p>○ 様々な事業提案や実際の事業実施を受けて、区内の他の地域活動団体の活動への波及や刺激となることが期待できる。</p> <p>○ 多くの事業が提案されることが地域の活力につながると思われるので、自治協議会委員の出身母体をはじめ、多くの団体から提案していただけるようPRする必要がある。</p> <p>○ この事業は、地域の課題解決・活性化への種まき事業という位置づけであることから同じ事業を2年続けて採択することはできないが、それぞれの団体がその後の資金手当てを検討のうえ、採択事業が一過性で終わることなく継続・発展して大きな実を結ぶような取り組みをお願いしたい。</p>
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

南区自治協議会第1部会

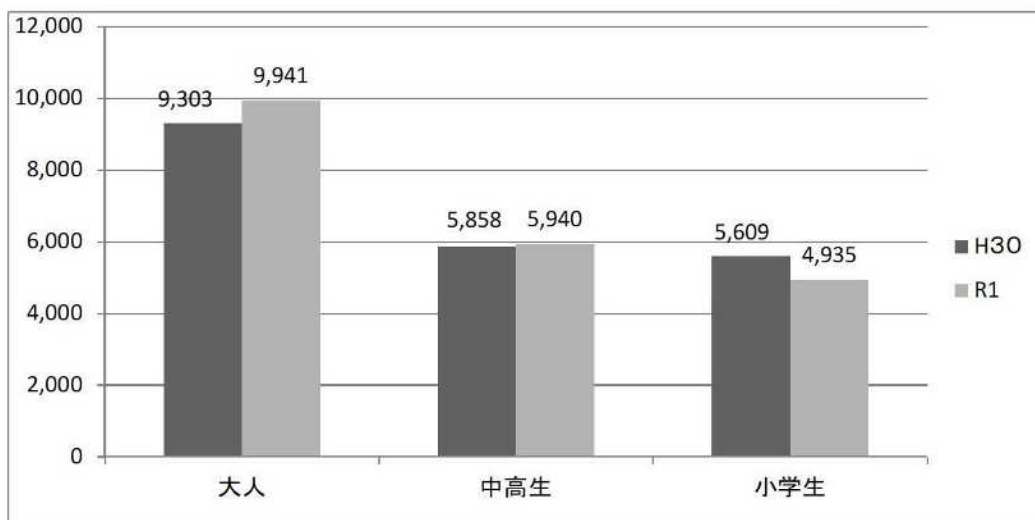
区分	内容
テーマ・事業名	・南区公共交通PR事業 ・南区防犯・防災啓発事業 【事業費予算 1,000千円】
事業目的・概要	【南区公共交通PR事業】 ・南区の区バス・住民バス・乗合タクシーの利用啓発を図り、利用者数増加につなげるため、情報紙などの作成や区バスの車内装飾によるPRを行う。 【南区防犯・防災啓発事業】 ・南区の防犯・防災に係る啓発活動を行い、安心・安全で、住みよいまちづくりにつなげるため、各種啓発グッズ作成や地域を見守る仕組みの検討等を行う。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	【南区公共交通PR事業】 ○公共交通にかかるイベント実施 ①夏休み期間の8月5日～8月23日にかけて、区バスの車内をジャングルをモチーフにしたバルーン等で装飾したジャングルバスを運行。(継続) ②9月2日～20日の期間、南区特産のフルーツをモチーフに車内を装飾したフルーツバスを運行。抽選で南区産フルーツをプレゼント。区バスと合わせて南区のフルーツについてもPRを行った。(継続) ③12月9日～25日の期間、車内をクリスマス装飾したクリスマスバスを運行。期間中乗車した方に花の種をプレゼントした(継続) ○南区公共交通ガイド、乗合タクシー利用チラシの作成、配布(継続) ○区バス協賛広告の更新(継続) ○医療施設や商業施設内にチラシを設置(16施設)、地域の茶の間で公共交通の取り組みPR(10か所)(継続) 【南区防犯・防災啓発事業】 ○「南区安心・安全みまもり隊」のステッカーを各自治協議会委員に配布し、みまもり活動の実施(継続) ○新小学1年生へ反射材の配布(継続)
事業の評価 <small>地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</small>	【南区公共交通PR事業】 ○バスの装飾イベントを3回実施したことで、普段バスに乗らない子どもたちが区バスに親しみを持ってもらう機会を多く設けた。また地域の茶の間で区バスをPRすることで、地域の中で公共交通の利用意識の啓発を行った。利用者数については、中学生や小学生の通学利用が減少する一方、大人(高齢者)の利用が増加傾向にあり、取り組みに対し一定の効果があつた。(利用者実績については別紙のとおり) ○課題として、運転免許返納後の福祉的観点も含めた、サポート体制の充実やPRの実施が必要。また、買い物弱者支援など、目的や地域の実情に沿ったPR方法の検討を行い、既存のPR事業と合わせて新規の利用者増加を図る。 ○車内装飾などのPRを行った結果、まちなか循環ルート「ぐるりん号」の利用者数が増加し、令和2年度からの本格運行化へ寄与した。 【防犯・防災啓発事業】 ○「南区安心・安全みまもり隊」の活動は、自治協議会委員自ら地域の安心・安全への意識を高めてもらうことにつながっているが、さらに各地域の防犯協会、青少年健全育成協議会などの関係団体と連携して安心・安全に関する機運を盛り上げる必要がある。 ○次年度は、交通安全協会や各防犯協会、地域ごとの取り組みについて調査・情報共有を行い、事業内容について検討する。
備考	

(次頁に続く)

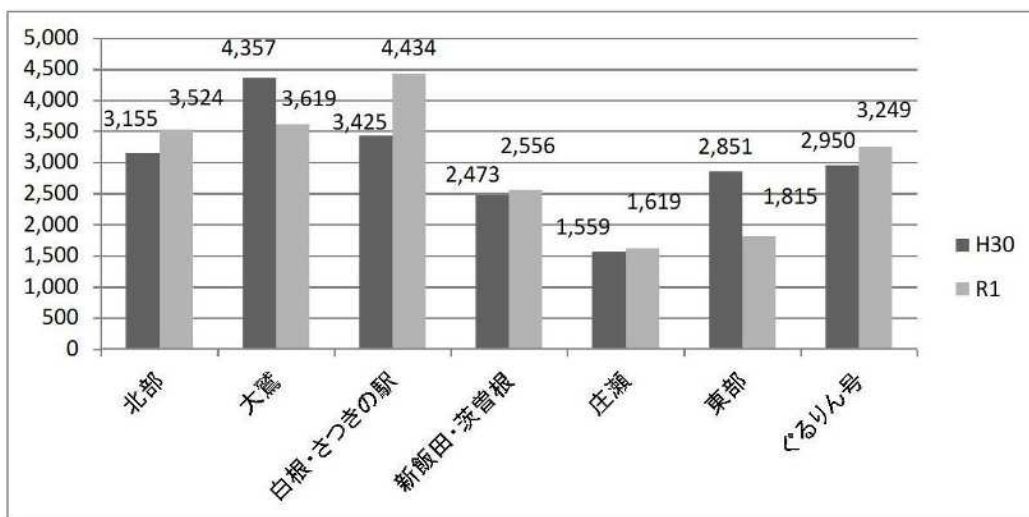
区バス・乗合タクシー利用実績(4～12月)

別紙

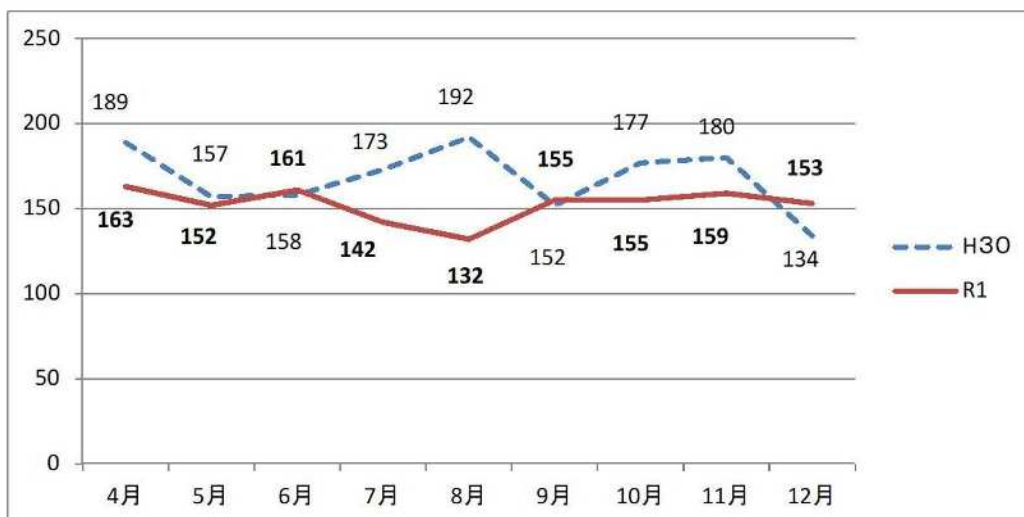
●利用者別推移



●路線別利用者推移



●乗合タクシー利用者推移



令和元年度区自治協議会提案事業 事業評価書

南区自治協議会第2部会

区分	内容
テーマ・事業名	◆南区家族ふれ愛事業 ◆出会いの場づくり事業 【事業費予算 1,500千円】
事業目的・概要	◆南区家族ふれ愛事業の8年目として、映画上映会等と児童・生徒の絵画・川柳展を行い、「家族ふれ愛月間」のさらなる定着を図る。 ◆少子化対策、晩婚化・未婚化対策、定住化の促進を目的として、独身の男女を対象に、南区での出会いイベントを開催する。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	◆南区家族ふれ愛事業 ○南区「家族ふれ愛月間」絵画展、標語・川柳展の開催 ■日時:令和元年11月1日(金)～11月20日(水) ■会場:白根学習館1階 交流広場 絵画展/標語・川柳展 展示総数:588点 ・(絵画)南区内小学校4年生の児童261人から出品された。 ・(標語・川柳)南区内中学校1年生の生徒327人から出品された。 ※地区文化祭、地域生活センターで絵画・川柳展示 展示箇所:茨曾根小、庄瀬小、小林C、臼井小、臼井中、大鷲小、大通C、味方中、月湯中 ○南区「家族ふれ愛月間」映画上映会等の開催 ■日時:令和元年11月10日(日) 午後2時00分から ■会場:白根学習館1階 ラスペックホール ■内容:「夢は牛のお医者さん」上映会 & 笛人本宮宏美スペシャルコンサート 来場者数:380人 ・映画上映後、映画のサウンドトラックを担当したフルート奏者による演奏会を併せて実施。 ◆出会いの場づくり事業 ○「アグリパークdeプレクリスマスパーティー 恋のふわふわパンケーキ」の開催 ■日時:令和元年12月8日(日) 午前10時30分から ■会場:アグリパーク 参加者:男性20人、女性17人 ※4組のカップル誕生 ・ゲームやクイズ、パンケーキ作りによる婚活イベントの実施。
事業の評価 (地域課題の抽出方法や企画立案の評価、事業の公益性・実効性・効率性の評価など)	◆南区家族ふれ愛事業 【評価】 ・上映会は来場者も多く、恒例の事業として区民の期待が感じられ継続していきたい。今回はフルート演奏も組み合わせることでさらに好評であったと思われる。 ・絵画・川柳展は、小中学校から参加してもらっており、各地域の文化祭での展示も定着し、地域への事業周知に繋がっている。 ・1年に1回南区の子どもたちの作品をまとめて見ることができ、子どもたちにとっても家族のふれあいを意識づけるよい機会となっている。 【課題及び今後の取組】 ・テーマ、目的を明確にしつつ映画上映等の事業を継続していく。 ・来場者は高齢者がほとんどであるため、幅広い年齢層に働きかける工夫が必要である。 ・小学生の絵画出品については保護者や学校から負担の声も聞かれるため、対象や募集方法を見直しながら継続していく。 ・展示されていることを知らない保護者も多いので周知の工夫が必要である。 ・学習館での展示方法について、縦から横のレイアウトに変更するなど、より見やすい展示方法を検討していく。 ◆出会いの場づくり事業 【評価】 ・参加者に本気度が感じられ、カップル成立数も昨年度5組、今年度4組と成果は順調であり継続していきたい。 ・女性の事前説明会も実施したことで、雰囲気の良い会となり効果があったと思われる。 ・女性の参加者募集に苦戦した。 【課題及び今後の取組】 ・女性の応募を増やす工夫が必要である。 ・もう少しゆっくり会話できる時間があるとよかった。 ・会場やイベント内容を検討しながら継続していきたい。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

南区自治協議会第3部会

区分	内容
テーマ・事業名	<p>◆南区魅力発信事業 ◆南区スポーツ交流事業</p> <p>【事業費予算 1,000千円】</p>
事業目的・概要	<p>◆南区魅力発信事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南区の魅力を紹介する観光案内看板を設置する。 ・地域の農業に興味と愛着を持ってもらい、食や農業に対する理解と関心を深める機会とするため、親子で農業体験(定植, 収穫, 料理教室)を実施する。 ・曾我・平澤記念館などの南区内の文化資源の掘り起こしのため、曾我量深氏, 平澤興氏の出身であり、要職に就かれた大学へ訪問し意見交換を実施する。 <p>◆南区スポーツ交流事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子のふれあいの場をつくり、区民の健康づくりの一助となるよう、子どもから大人まで楽しめるファミリーダンスを開催する。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<p>◆南区魅力発信事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観光案内看板の設置 ・月潟出張所前に南区観光案内看板を設置し、区内の観光施設等のPRを行った。(南区で設置した看板は全部で4か所) ○親子農業体験事業の実施 ・日時: 令和元年6月22日(土) 午前10時～午後0時 (第1回目) 令和元年10月26日(土) 午前10時～午後1時 (第2回目) ・会場: 新潟市アグリパーク ・参加者数: 10組25人 ・内容: 新潟県全体の8割が南区で生産されている食用菊「かきのもと」について、定植, 収穫, 料理教室を通して学ぶ。 ○大谷大学, 京都大学への訪問 ・日時: 令和元年12月4日(木)～5日(金) ・訪問者: 自治協議会委員2人, 事務局1人 <p>◆南区スポーツ交流事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ファミリーダンス教室の開催 ・日時: 令和元年12月21日(土) 午後1時30分～2時30分 ・場所: 白根児童センター アリーナ ・講師: ダンススクール「ラビットクラブ」 諸橋 香奈 氏 ・参加人数: 92人(小人: 74人 大人: 18人)
事業の評価 <small>〔地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など〕</small>	<p>◆南区魅力発信事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観光案内看板の設置 ・月潟出張所前に設置し、南区全体に観光案内看板が設置されている箇所が4か所となった。区外からの観光客を中心に区内の観光地や文化施設などに行っていたくきっかけづくりができた。一定の目的が達成できたため、看板の設置は今年度で終了とする。 ○親子農業体験事業の実施 ・アグリパークで野菜の収穫体験がとてもよかった。 ・かきのもとを学ぶ体験は良かったが、それに加え子どもたちが収穫して楽しめる作物で農業体験ができるともっと参加しやすくなる。 ○大谷大学・京都大学への訪問 ・味方地区をはじめとする地元の盛り上げが必須である。 ・今回の訪問を踏まえて曾我・平澤記念館の展示替えや新たなパンフレットを作成することなど、さらなるPRに向けてできるところから行っていく。 <p>◆南区スポーツ交流事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ファミリーダンス教室の開催 ・小学校の冬休み期間に合わせて実施したことで多くの子どもたちに参加してもらうことができ、寒い中でも体を動かすことができた。
備考	

(※令和2年度 南区事業評価書は令和3年3月中に確定)

西区自治協議会（第7期）を振り返って

西区自治協議会会長 下川 照雄

1 はじめに

人口減少や少子超高齢化が進む中、地域課題は複雑多様化しており、これまで以上に区民や行政と協働し、課題解決のために取り組んでいくことが重要となっています。

今期は、運営方針を定め、西区自治協議会として重点を置く地域課題を「支え合いの取り組みの輪を広げる」「管理不全な空き家にしないための取り組み」「地域の担い手育成（自治会・民生委員・児童委員）等」「区の魅力発信・賑わい創出」の4つとし、取り組みました。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、地域におけるさまざまな活動が制限を余儀なくされましたが、区自治協議会の協働の要としての役割を停滞させることの無いように、委員一人ひとりが地域課題解決に向けたアイデア出しや事業の広報活動等できることを行い、かつ地域活動団体と協働して課題解決に着実に取り組みました。

第8期の西区自治協議会において、さらなる地域課題の解決に取り組んでいただけるよう、第7期の成果や取組みをここに報告いたします。

2 取組内容・成果・課題

(1) 本会について

ア 支え合いの取り組み（降雪時等）の輪を広げるための検討

平成30年1月の大雪を踏まえ、前期では改めて互助について考え、互助の実例を共有し、課題を洗い出しました。今期では、課題解決に向けて区自治協議会として取り組めることを検討しました。

この検討から、西区自治協議会広報紙「西区を豊かに」で、地域で取り組めることや降雪時に個人で取り組めそうなことを発信することや、「支え合いの大切さ」に気づいてもらうきっかけとして、令和2年度区自治協議会提案事業で支え合いの大切さを広める標語等募集事業を実施しました。

イ 区自治協議会で議論する内容の所属団体等へのフィードバックの方法について情報共有

委員の所属団体等への情報共有の方法について話し合い、所属団体の会議の

場や活動の場を活用して報告しているほか、友人や家族、趣味の会、学校で会う保護者など身近な人にも伝えているといった現状を共有しました。

「地域の代表であり、区自治協議会での議論を団体へ持ち帰り、活動へ生かす」という、委員の役割を再認識し、各委員で取り組めるものから取り入れてもらうこととしました。

(2) 部会・提案事業について

ア 第1部会

第1部会は、防犯、防災、自然環境、住環境分野を所管する部会です。

第7期では、重点的に取り組む地域課題である、“管理不全な空き家にしないための取り組み”をテーマに活動を行いました。具体的な取り組みとしては、空き家に関するシンポジウムを開催しました。また、空き家について家族で話し合うことの大切さを伝えるポスター等を作成し、啓発活動に取り組みました。

イ 第2部会

第2部会は、保健・福祉、文化・スポーツ、教育分野を所管する部会です。

第7期では、重点的に取り組む地域課題である、地域の担い手育成（自治会、民生委員・児童委員）や支え合いのしくみづくりの輪を広めることをテーマに事業募集を行いました。また、平成30年1月の大雪をきっかけに、本会で普段から支え合える地域となれるように区自治協議会として取り組めることを検討したアイデアをさらに深め、「支え合いの大切さ」を広める標語募集事業に取り組みました。

ウ 第3部会

第3部会は、農林水産業、商工業、交通分野を所管する部会です。

第7期では、重点的に取り組む地域課題である区の魅力発信・賑わい創出をテーマに事業募集を行い、地域活動団体とともに課題解決に向けて取り組みました。

また、区の魅力をワークショップ形式で洗い出し、まずは委員自身が魅力を実感する機会として、西地区内野で新川開削の歴史を座学で学んだほか、黒埼地区木場のまちあるきを実施しました。また、次期に向けてインスタグラムを活用した魅力発信に試験的に取り組みました。

エ 広報紙特別部会

広報紙特別部会は、西区自治協議会広報紙「西区を豊かに」の編集・発行を所管する部会です。

区自治協議会の活動を広く区民に周知し、認知度を上げる目的で、広報紙「西区を豊かに」を第7期中に6回発行したほか、西区だよりにて、区自治協議会

特集を2回掲載いただきました。構成にあたっては、多くの方に読んでもらえるように、特集や連載企画を織り交ぜながら、手に取ってもらえる紙面づくりを心掛けました。

SNSに広報紙の記事を掲載することで、広報紙のホームページアクセス数の増加につなげることができたほか、クロスワードパズルを毎年新年号に掲載し、区自治協議会に対する多くの意見や感想を得ることができました。

今後も区自治協議会の認知度を高めるため、親しみやすい紙面づくりに一層努めていきます。

オ アートフェスティバル特別部会

アートフェスティバル特別部会は、西区アートフェスティバルの企画・実施を所管する部会です。

区内の文化風土を耕して区民の一体感を醸成するため、区内で音楽・芸能やアート表現に取り組む個人や団体の発表の場として、西区アートフェスティバルを年1回開催しました。これまで以上に新潟大学との連携を深めるため、事業を融合して「+音届（プラスおとどけ）」として親子参加型のイベントやコンサートを実施しました。

※提案事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

3 おわりに

今期は、4つの重点的に取り組む地域課題を定め、それらの解決に向けた事業を地域活動団体から募集して協働することにより、限られた時間の中でも、課題への審議を深め効率的に取り組むことができました。

来期も同様の手法をとることで、効率的かつ効果的に地域課題の解決に取り組んでいただきたいと考えています。

また、部会では活発な議論ができた一方で、本会では活発な意見が出づらい状況にありました。このことから、次期は進行や議題への理解が深まるような工夫や、本会で活発に意見交換が行えるような改善が行われることを期待します。

第8期は、このような点を踏まえ、区民と市の「協働の要」として、活動の活性化がさらに図られることを願います。

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	西区自治協議会シンポジウム 「空き家対策は地域づくり～迷惑空き家にしないための取り組み～」 【事業費予算 500千円】
事業目的・概要	市民と市との協働の要として役割を果たしてきた西区自治協議会において、区自治協議会の活動を発信し、地域課題の解決に向けて、下記テーマにより、地域と共に考えるきっかけとなるようなシンポジウムを開催した。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数 など)	西区自治協議会シンポジウム 【日時】 令和元年11月10日(日) 午後2時40分～3時50分 【会場】 西新潟市民会館2階多目的ホール 【テーマ】 「空き家対策は地域づくり～迷惑空き家にしないための取り組み～」 【内容】 区内自治会の取り組み事例や他都市の地域での空き家見守り活動等、実際に取り組みを行っている方からパネルディスカッション形式でお話いただいた。 【参加者】 140名
事業の評価 (地域課題の抽出方法や 企画立案の評価 事業の公益性・実効性・ 効率性の評価など)	<p>【地域課題の抽出とその解決策】 多くの地域で、所有者が分からなく、管理が行き届かない「迷惑空き家」、いわゆる迷惑な空き家についてさまざまな悩みを抱えていると聞いており、地域での空き家見守り活動など、実際に取り組みを行っている方々から話を伺うシンポジウムを開催した。</p> <p>【アンケート結果】 1. 調査方法：来場者を対象に当日アンケート配布を行い、退場時に無記名回答。 2. 回答：106名 (1) 本日のシンポジウムはいかがでしたか [非常によかった・よかった] … 90.6% (2) 内容はいかがでしたか [大変参考になった・参考になった] … 91.5%</p> <p>〈主な感想〉 ・空き家の予防として、住民同士と自治会との良好な関係が必要だとわかった。 ・当事者の具体的な取り組みが聞けて良かった。 ・自治会内で意見交換してみたい。</p> <p>【気づいた点】 ・一旦、迷惑空き家になってしまうと、ねばり強い繰り返し対応が必要となり大変だということがパネラーの苦労話を聞いてわかった。 ・迷惑空き家になる前の取り組みが大切と改めて感じた。 ・あいさつや声がけなど近所づきあいが基本。住んでいる時期も含めて所有者と良好な関係が大切ということがわかった。 ・空き家のリーフレットやさわやかトーク宅配便等を活用し、市の取り組みを知って欲しい。</p> <p>【成果と課題】 ・アンケートの結果、「よかった・参考になった」との声が9割を超えた。 地域での空き家見守り活動など実際に取り組みを行っている方々の話を聞いてもらうことで空き家についての現状や課題について伝えることができた。 ・管理不全な空き家にしないため、所有者への意識啓発が必要と感じた。 ・区内の約1/4の自治会から参加いただいた。さらに多くの方へ知ってもらうために周知方法に工夫が必要と考える。</p>
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	地域課題解決に向けた事業募集 【事業費予算 1,500 千円】
事業目的・概要	人口減少・少子高齢化の進展など社会経済情勢の変化や住民ニーズの多様化に伴い、地域課題が複雑化する中、地域の状況を的確に捉え、課題解決に向けて一層きめ細かに対応していくため、地域課題の解決に取り組む団体から、より高い効果が得られる事業を募集し、西区自治協議会と協働して実施する。
事業の 実施実績 (実施回数、 参加者数など)	<p>①事業テーマ 地域の担い手育成(自治会、民生委員・児童委員)等</p> <p>【事業名】地域内の関係づくりと自治活動への参加を促す行事カレンダーづくり 【実施団体名】NPO法人まちづくり学校 【日時・会場】行程1 地域活動見直しワーク研修会 令和元年10月23日(水)午後7時～午後9時 西区役所健康センター棟1階104・105会議室 行程2 行事カレンダーづくり 令和元年12月2日(月)～令和2年2月5日(水)計4回(事前打合せ) 内野平和台自治会館</p> <p>【対象】西区内自治会 【内容】自治会向けの研修会、内野平和台自治会と行事カレンダー作成 【参加者】地域活動見直しワーク研修会 27自治会37名 行事カレンダーづくり 当該自治会:5名、見学:13名(6自治会7名、他6名)</p>
	<p>②事業テーマ 支え合いのしくみづくりの輪を広げる取り組み</p> <p>【事業名】「プログラミング教育」を通じた教育支援環境の構築と人材活用 【実施団体名】大人向けプログラミング勉強会 【日時・会場】保護者講座 令和元年12月21日(土)～令和2年2月29日(土)計5回 新潟大学、健康センター棟3階大会議室、黒埼南部公民館 ほか 課外講座 令和元年11月28日(木)～令和2年1月31日(金)計14回 五十嵐小学校PCルーム</p> <p>【対象】西区内の小学4～6年生、保護者 【内容】学習指導要領に示されたプログラミング教育に用いられる3つの手法を体験 【参加者】164名(保護者講座:5回143名、課外講座:14回21名)</p>
	<p>③事業テーマ 区の魅力発信・賑わい創出</p> <p>【事業名】西区の歴史・文化・技術の記憶を200年後の未来の人々へつなぐ 【実施団体名】越後新川まちおこしの会 【内容】開削200周年を迎えた「新川」の歴史を紹介する映像を作成 ・上映会 令和2年2月15日(土)午後2時～内野まちづくりセンター ・DVDを区内を中心に小中学校へ配布・貸出用として図書館に設置 【参加者】上映会 約280名(会場内200名、ロビー80名) 会場に入れずお帰りになった方 約50名</p>

(次頁に続く)

<p>事業の評価</p> <p>〔地域課題の抽出方法 や企画立案の評価 事業の公益性・実効性 ・効率性の評価など〕</p>	<p>【地域課題の抽出とその解決策】 重点的に取り組む地域課題を抽出し、それらの解決に資する提案を公募し、提案団体と協働して実施した。</p> <p>【アンケート結果：一部抜粋】</p> <p>①回答：29名（研修会参加者）</p> <ul style="list-style-type: none"> 内容についての満足度[とても満足・満足]…34% [どちらとも言えない]…48% →理解できなかったとの意見もあったため、補足資料を送付し内容を補完した。 行事カレンダーづくりを実施した自治会 各世帯に配布することで、自治会の活動計画等が日々目に入り、自治会に対する関心は増えるものと思われる <p>②回答：141名（保護者講座参加者）</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学生や地域の大人からの指導は楽しかったか[とても楽しかった・楽しかった]…91% 体験会が地域で開催されたら、また参加したいか[参加したい・どちらかといえば]…89% <p>③回答：64名（上映会参加者）</p> <ul style="list-style-type: none"> 上映会の感想[とても良かった、良かった、普通]…86% 今年が新川開削から200年であることを知っていたか[知らなかった]…50% 内容を家族や知人に伝えていきたいか[伝えたい]…94% <p>【良かった点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ノウハウのある地域活動団体と協働することで、効果的に課題解決ができた。 これまで持ちえなかった発想を活かした課題解決ができた。 <p>【改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自治協・事務局と提案者の間で、課題解決の手法に対するイメージのズレていたため、期待する手法の更なる詳細審議が必要。
<p>備考</p>	

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	第7回西区アートフェスティバル+音届 【事業費予算 1,800 千円】
事業目的・概要	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西区全体の文化風土を耕して区民の一体感を醸成する。 ・西区でアートの表現活動に取り組んでいる団体等に発表の場を提供し、幅広い区民から知ってもらおう。 ・大学の存在をはじめ、学術・文化豊かな西区のパワーを発信する。 ・西区の魅力を発信する。 <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西区自治協議会と新潟大学が共催で実施。 ・音楽芸能団体の発表の場として、また、西区にちなんだ多様なアート作品展示により、西区の宝を共有するイベントを開催し、併せて、新潟大学の学生が企画・運営した親子で楽しむ参加型のクラシックコンサートを開催。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p><音楽・芸能部門> 令和元年10月27日(日) 13:30~16:00 西新潟市民会館多目的ホール 【出演団体】7団体、102人 《合奏、合唱、芸能、ダンス、特別ゲスト、ロビー演奏》</p> <p><アート展示部門> 令和元年10月26日(土)13:00~17:00、10月27日(日)9:00~16:00 西新潟市民会館ギャラリー 【作品内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①新潟大学工学部による体感するアート作品 ②アール・ブリュット作品 ③区内小学生の自由研究優秀作品 <p><おやこでクラシック> 令和元年10月27日(日)10:00~10:40、11:20~12:00 西新潟市民会館大会議室 小学生以下のお子さんと保護者を対象とした親子参加型のコンサート</p> <p><来場者>:延べ750人(うち、おやこでクラシック171名)</p>
事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など)</small>	<p>○アートフェスティバル 【地域課題の抽出とその解決策】 西区は、坂井輪地域・西地域・黒埼地域の3地域で構成されており、各地域の文化活動は盛んだが、西区が一体となった文化活動が見られなかった。そこで、西区で音楽芸能活動やアート作品の制作に取り組んでいる団体に総合的な発表の場を創出し、区民の一体感を醸成を図った。</p> <p>【アンケート結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆調査方法:来場者を対象に当日アンケート配布を行い、退場時に無記名回答。 ◆有効回答:206名(有効回答率35.4%) ➤アートフェスティバルはいかがでしたか <p>[とても良い…60.2%、まあまあ良い…22.8%、ふつう…2.4%、やや不満…0.5%、不満…0.0%、無回答…14.1%]</p> <p>【評価(成果)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々なジャンルの出演団体を織り交ぜ、最初から最後まで楽しんで観ていただくことができた。 ・新たな試みのロビー演奏は、間近で演奏を聴けて良かったとの声が聞かれた。 ・例年と会場が異なり駐車場スペースが少なかつたにも関わらず、一定の入場者を確保することができた。 ・アート展示について、ギャラリースペースがある会場だったので展示や照明の当て方を工夫でき、来場者から好評の声を多数いただいた。 ・障がい者が制作したアール・ブリュット作品や区内小学生の自由研究優秀作品について、出品数を増やすことで、多くの方から自身の作品展示を喜んでいただくとともに、関係者からも多数ご来場いただいた。 <p>【改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部演奏途中の退席や私語などが見受けられたので、表示やアナウンスなど工夫する必要がある。 ・アート作品展示では、作品の説明や障がい者施設などの紹介など、来場者に分かりやすいよう工夫する必要がある。 ・引き続き、新規の企画内容を盛り込む等マンネリ化を防ぐ工夫と、より一層PRに努める必要がある。

(次頁に続く)

	<p>○おやこでクラシック</p> <p>【地域課題の抽出とその解決策】 親子向けにクラシックをより身近に感じてもらえるよう、需要のある親子参加型のコンサートを開催した。新潟大学の学生が企画・運営し、学術・文化豊かな西区の魅力を発信できた。</p> <p>【アンケート結果】 ◆調査方法: 来場者を対象に当日アンケート配布を行い、退場時に無記名回答。 ◆有効回答: 87名(有効回答率50.9%) ➤おやこでクラシックはいかがでしたか [非常に良い…40.2%、良かった…54.0%、どちらともいえない…0.0%、良くなかった…0.0%、無回答…5.7%]</p> <p>【評価(成果)】 ・0歳から3歳児の親子連れの参加者が多く、その世代に合ったプログラムで非常に良かった。 ・小さい子どもと一緒にに行けるコンサートが少ないため、参加者から大変喜ばれた。</p> <p>【改善点】 ・体験楽器や装飾品があると良かった。 ・会場の準備時間を十分に確保する必要がある。</p> <hr/> <p>○事業全体</p> <p>【評価(成果)】 ・初めて自治協議会と大学が共催で実施し、地域と学生との連携によりイベントを遂行することができ、学生にとってもいい学びの場となった。 ・大学と連携することにより、様々な世代に喜ばれる企画を盛り込み、機能的に事業を行うことができた。 ・自治協委員や学生が運営スタッフとして携わり、また、部会長もナビゲーターとして次のステージのつなぎ役として努めたことにより、より楽しく親近感のあるイベントとすることができた。</p> <p>【改善点】 ・来場者が1つだけでなく多数の企画に参加しやすいような工夫が必要である。</p>
備考	

(※令和2年度 西区事業評価書は令和3年3月中に確定)

西蒲区自治協議会（第7期）を振り返って

西蒲区自治協議会会長 長井 正雄

1 はじめに

委員構成が大きく変わり、新たな姿でスタートした第7期西蒲区自治協議会ですが、委員構成以外にも、多くの“変化”があった2年間だったと感じます。

特に今年度は新型コロナウイルスにより、初めて書面にて会議を開催したほか、提案事業の中止や見直しが相次ぐなど、常に「新しい生活様式」に対応した運営が求められてきました。

このような中でも、区自治協議会としての役割を果たし、活発な議論を展開していくべく、次年度の特色ある区づくり事業をはじめとした意見聴取などを行う際には、委員全員が意見を出すことができるような手法をとり、一人ひとりが委員としての役割を認識し、自覚を持ってもらうよう働きかけてきました。

さまざまなものが予定通りに実施できないことも多々ありましたが、この特殊な状況下においても、試行錯誤をしながら取り組んだ、第7期の活動内容や成果、課題などについて報告します。

2 取組内容・成果・課題

(1) 全体会について

ア 西蒲区自治協議会のあり方に関するグループディスカッションの実施

第6期（平成29年～30年）に「新潟市区自治協議会のあり方検討委員会」が市に設置され、「これまで以上に、組織のあり方を区の実情に合ったものにする」という方向性が示されるとともに、区の裁量で行える部分の見直しは各区で行うこととなりました。そこで第7期では、会議における議論の活性化を図るため、「西蒲区自治協議会のあり方に関するグループディスカッション」を実施し、区の裁量で行えるものの中から、開催日時や頻度、会議の議題などについてディスカッションを行いました。レイアウトの変更や毎月の議題について、新たなアイデアも多く出されたため、試験的に実施してみるなど今後の会議に生かしていくことが必要です。

イ 会議運営方法の見直し

多くの委員による主体的な発言の機会を設けるため、これまで会議終了後に常任部会を開催していたところ、令和2年度の途中より開催順序を逆にしたこ

とで、終了時間を気にすることなく議論ができるよう、十分な会議時間を確保しました。しかし、依然として発言者が固定化していることから、委員研修の充実や積極的に発言できるような環境づくりなど、運営面での工夫が必要です。

なお、前段の「西蒲区自治協議会のあり方に関するグループディスカッション」で出た意見の一つに、会議レイアウトについて現在の口の字型から少人数のグループ型への変更が挙げられ、令和2年4月より試験的に実施する予定としておりましたが、新型コロナウイルスの影響により実現には至りませんでした。この取組みが実現できれば、委員の積極的な発言が期待できるのではないかと考えます。

ウ 西蒲区選出市議会議員との懇談会の開催

地域課題に関する情報共有・意見交換を行い、今後の活動に生かすことを目的に懇談会を開催しました。

西蒲区自治協議会委員が把握している多岐にわたる地域課題について懇談したことで、委員の見識が深まりました。

今後も、西蒲区自治協議会内で諸課題に関する議論をより深め、その結果を議員に届けていくことが必要です。

エ 委員研修の実施

令和元年・2年度に、類似する地域課題を抱える南区自治協議会との合同による研修をそれぞれ1回実施しました。

令和元年度は「子ども食堂」をテーマとし、講義講演や事例発表の後、グループディスカッションを行いました。また、令和2年度は南区に訪問し、施設見学や意見交換等を行いました。

これらの研修により、多様化する地域課題に取り組む区自治協議会委員としてのスキルアップにつながったと考えます。

しかし、両研修ともに委員の参加率が決して良くないことが課題として挙げられるため、今後どのような手法・内容で行っていくか、検討が必要です。

(2) 部会・提案事業について

ア 総務部会

総務部会は、防犯・防災、教育、文化・スポーツ、公共交通など多岐にわたる分野を所管する部会です。

第7期では、教育をテーマにした事業と、スポーツ・レクリエーションに関連した事業に取り組みました。

(ア) 西蒲区「豊かな心」育成事業

次代を担う子どもたちの「豊かな心」を育成・形成するため、保護者を対象に社会教育の専門家による講演会を開催しました。

(イ) 西蒲区スポーツ・レクリエーション事業

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に伴い関心が高まっているスポーツ分野に着目し、スポーツ講演会を開催しました。

イ 保健福祉部会

保健福祉部会は、健康や福祉の充実のほか、生活環境など区民生活に関する分野を所管する部会です。

第 7 期は、第 6 期に引き続き、認知症に関する事業に取り組みました。

(ア) 西蒲区認知症対策事業

認知症対策として、2 つの事業に取り組みました。

1 つ目として、「にしかんウオーキングチャレンジ」として、日々の歩数等を記録できる「にしかんウオーキング手帳」を作成したほか、ウオーキングに関する講演会を実施しました。

2 つ目として、「認知症講演会」を開催予定としていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となってしまいました。

(イ) にしかんシルバーサポート事業

認知症の方を支える側の視点に立ち、だれもが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、身の回りのことを書き留めておくことができるノート「おもいをしるす」を作成しました。

ウ まちづくり・産業部会

まちづくり・産業部会は、主に観光や商工業、農業に関する分野を所管する部会です。

第 7 期は、西蒲区のまちの魅力を発見・PR するため、まち歩きガイドの養成や、ツアーの検討に取り組みました。

(ア) 西蒲区まち歩きガイド養成事業

区内の交流人口の拡大及び区の活性化を図ることを目的に、第 6 期に引き続き、まち歩きガイド養成講座を開催しました。

(イ) 西蒲区お宝発見ツアー検討事業

区の観光政策を実際に体験し、これまで提案事業で養成した「まち歩きガイド」を観光資源の一つとして、点在する他の観光資源とともに有機的につなぐ手法を検討しました。

※提案事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

エ 広報部会

広報部会は、西蒲区自治協議会の活動・取組みを区民に周知するための広報紙「じちきょう」を発行する活動をしています。

令和2年度の市政世論調査によれば、西蒲区内における区自治協議会の認知度が58.5%と市内で最も高い結果になり、手に取って読んでもらえるような紙面づくりのために、写真を多く用いることや、紙面レイアウトの変更を行ってきたことが、この結果につながったのではないかと考えます。引き続き、西蒲区自治協議会を身近に感じていただけるような紙面づくりを検討していくことが重要です。

オ 調整部会

西蒲区自治協議会の円滑な運営のために設置されている部会です。第7期においては、部会間の意見や提案事業予算の調整を行いました。

3 おわりに

区自治協議会は区民等と市との「協働の要」であり、複雑化・多様化する地域課題の解決に向け、活発な議論が求められます。

しかし、議論を深める場である部会では、依然として提案事業に多くの時間を費やしており、委員・事務局双方の大きな負担となっているのが現状です。予算ありき、イベントありきではなく、地域課題解決のためには何が必要か、ということをしつかりと議論していくことが必要です。

一人ひとりが委員としての自覚をしつかりと持ち、多様化する地域課題の解決に向け、活発な議論を展開していくことができる第8期西蒲区自治協議会となることを期待しています。

区自治協議会提案事業 事業評価書

西蒲区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	西蒲区「豊かな心」育成事業 【事業費予算 1,500千円】
事業目的・概要	次代を担う子どもたちの「豊かな心」を育成・形成するため、保護者を対象に社会教育の専門家による講演会を開催し、価値観やライフスタイルの変化、人間関係の多様化・複雑化に伴う教育問題に対応するための方法を学ぶ。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	講演会「子どもの才能のを見つけ方、伸ばし方」 ・日時: 令和元年8月31日(土) 午後1時30分～3時30分 ・会場: 西川多目的ホール ・講師: 辻井いつ子 氏(世界的ピアニスト辻井伸行 氏の母) ・アトラクション: 越王太鼓 ・参加者: 450人 ※保育室開設(子ども18人)
事業の評価 <small>地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</small>	<p>○第7期区自治協議会の新体制がスタートしたばかりであったが、子育て関連の講演により子どもたちの「豊かな心」を育成するという認識を、委員の中で共有できたことによりスムーズに話が進んだ。少子高齢化が著しく進行している西蒲区だからこそ、次世代に伝えたい思いを具現化する事業、企画になった。</p> <p>○参加者へのアンケートでは、アトラクション・講演ともに、9割を超える回答者から高評価をいただいたことから実効性は高いものと考えられる。</p> <p>○保育室を設けたことで、子育て真っただ中の若い層が来場できたことは大きなプラスであり、公益性も高いと考えられる。しかし、全参加者を世代別で見るとその数は低く、SNS等の活用方法も併せて、どのようにPRするべきかの課題が残った。</p> <p>○委員、事務局の負担が大きかったため、今後の事業実施にあたっては役割分担などの整理が必要である。</p>
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

西蒲区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	西蒲区認知症対策事業 【事業費予算 1,500千円】
事業目的・概要	認知症に関する正しい知識を学び、認知症予防への関心を高めるとともに、運動習慣や脳トレ習慣を身に付けることにより、健康意識の醸成・認知症予防など、健康寿命の延伸を図る。 ○にしかんウォーキングチャレンジ 日々の歩数等を記録できる「にしかんウォーキング手帳」を作成したほか、ウォーキングに関する講演会を実施。 ○西蒲区認知症講演会 昨年に引き続き、長岡市寺泊出身の医学博士 加藤 俊徳 氏による講演会を開催。元劇団四季代表取締役 たなか浩一氏を招き、「脳が若返る生き方～演劇と脳活～」と題した対談を実施。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	○にしかんウォーキングチャレンジ 手帳提出数: 196名 8月17日 ウォーキング講演会開催 ※体組成測定会同時開催 会場: 巻地域保健福祉センター 講師: 東京都健康長寿医療センター研究所 青柳 幸利 氏 演題: 健康寿命を延ばす歩き方の黄金律 参加者数: 122名 9月～11月 チャレンジ期間 12月26日 抽選景品当選者抽選→21名を選出 ○認知症講演会(中止) 開催日: 令和2年3月15日(日) 会場: 新潟市立巻西中学校 講師: 医学博士 加藤 俊徳 氏、たなか浩一 氏 演題: 脳が若返る生き方～演劇と脳活～ →新型コロナウイルス感染症の影響により、中止
事業の評価 地域課題の抽出方法や 企画立案の評価 事業の公益性・実効性・ 効率性の評価など	○にしかんウォーキングチャレンジ ・1号委員だけではなく、専門分野の委員、また区健康福祉課との協働により、専門的な観点から企画することができた。 ・認知症に関心が高まっている現在、このような企画を立案・実施し、多くの人が自分の身になって考える良い事業だった。 ・手帳に毎日歩数を書き込むことで、自身の健康意識を高め、またそれを基に生活習慣を見直すきっかけとなった。 ・アンケート結果より、特にウォーキングを日頃していない人から、歩くことの大切さ、健康への意識の変化が得られた。 ・参加者が、健康に対する意識を高く保ち、ウォーキングを日常的に行うことで、友人、知人等が感化され、区内の健康意識が高まり、認知症予防や健康寿命の延伸に繋がる効果的な事業であった。 ○認知症講演会 ・今回は残念ながら中止となってしまったが、昨年度に引き続き、このような講演会を企画することは、継続的に認知症についての正しい知識を学んでもらえる良い機会だと考える。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

西蒲区自治協議会

区分	内容
テーマ・事業名	西蒲区まち歩きガイド養成事業 【事業費予算 2,000千円】
事業目的・概要	まちあるきガイドを養成し、西蒲区の交流人口を増やすことで、区の活性化を図る。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>○「西蒲区まち歩きガイド養成講座」を潟東地区と西川地区の2カ所で開催。</p> <p>○2地区合同講座1回、地区別講座を各3回実施後、一般の方をガイドする実践講座を各地区で実施した。このほか、2地区で随時、自主勉強会を行った。</p> <p>開催日：合同講座6月1日(土)</p> <p>潟東地区講座6月29日(土)、7月17日(水)、8月7日(水)、10月14日(月)</p> <p>自主勉強会7月15日(月)、7月17日(水)、7月22日(月)、8月27日(火)、9月20日(金)、9月28日(土)、10月5日(土)</p> <p>西川地区講座6月30日(日)、7月17日(水)、8月7日(水)、10月19日(土)</p> <p>自主勉強会8月29日(木)、9月15日(土)、10月8日(火)</p> <p>○受講生数：潟東地区13名、西川地区11名</p> <p>○受講生ガイドデビュー日参加者数：潟東地区31名、西川地区16名</p> <p>○2月中旬、両地区設立総会開催予定</p> <p>○3月上旬、西蒲区まち歩き団体情報交換会開催予定</p>
事業の評価 <small>地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</small>	<p>【事業評価】</p> <p>○昨年度、今年度とまち歩きガイド養成事業を行ったことで、西蒲区すべての地区にガイドグループが立ち上がる予定のため、今後広く西蒲区の魅力発信の役割を担っていくことと期待され、長期間で公益性、実効性の高い事業となった。</p> <p>○講座受講生から、「参加してみて地域の知らなかった場所を知ることができた」、「今後地域の魅力をより深く知り、たくさんの人に発信したい」などの声があり、郷土愛の育みや区づくりへの参加意識の高揚につながった。</p> <p>○昨年度と違い、委託業者に頼らず自治協委員や既存のまち歩き団体の方などがチームリーダーを務め、区民が主体的にまちづくりに参画したことにより、協働の輪が広がった。</p> <p>【今後の課題検討について】</p> <p>○ガイドグループが継続的に自立し、運営できる環境づくり</p> <p>○ガイドグループのネットワーク構築</p>
備考	

(※令和2年度 西蒲区事業評価書は令和3年3月中に確定)

新型コロナウイルス感染症による 区自治協議会の諸課題に関する情報共有について (第7期から第8期へ)

第7期新潟市区自治協議会会長会議

平成から令和へと新しい時代を迎え、新潟市においても新たな時代への期待が高まる中、令和元年度末から2年度にかけ新型コロナウイルス感染症（以下、感染症という。）が拡大の一途を辿っています。そして、その影響は地域における人と人とのつながりや日々の活動にまで及び、これまでの物ごとに対する概念が覆される事態となっています。

一方、このような状況下にあって、世の中全体でさまざまな場面において今取り組んでいることを見直す機会と捉える機運も見えています。

第7期においても、感染症により諸活動の自粛、縮小が続き、各活動等について見直しを行い、着眼点を変えて実施しました。コロナ禍の中での第8期の引継ぎに向け参考となるべく、各区で意見交換及び情報共有したものを、会長会議で集約しましたので、今後の運営並びに活動の参考としていただければ幸いです。

1 提案事業について

(1) 「withコロナ」時代に対応した提案事業のあり方について

ア この世情における提案事業への期待

○人との関わりの分断を余儀なくされ、交流が制限されている。人と人をつなぎ、みんなが元気に明るくなれるような事業を実施していければ良い。

イ 意識改革の必要性・継続性

○地域課題は単年度で解決する問題ではなく、事業終了後も必要に応じて他団体等に行ってもらうなど、継続性も考えていかなければならない。

○提案事業により地域課題の解決を図るには、委員のみではなく、コミュニティ協議会など他の団体等と協働して実施していくことが必要である。

そのためには、日ごろから連携を密にするとともに、地域の声を集約し、区自治協議会での議論等を地域へ持ち帰る「地域代表」の役割が重要である。

○イベント中心・事業ありき・予算を使わなければもったいない等の考え方を換え、地域課題の解決に向けた取組みを委員自らが検討し、課題の調査研究や事業の企画・運営することで、柔軟に取組内容を見直せる。そのために、具体的な事業内容は、新年度に実際に行う委員たちで決めるほうが良い。

○一方で、イベント事業の実施は区自治協議会の認知度向上に一定程度寄与してきたと思われる。

参考：第47回（令和2年度）「市政世論調査」結果（概要・市全体）

居住している区の「区自治協議会」について、

- ・名前も活動内容も知っている：17.4%
- ・名前だけ知っている：27.7%
- ・知らない：52.8%
- ・不明、無回答：2.1%

ウ 提案事業制度の整理・検討、運用にあたって留意する点

○この機会に再度、提案事業の課題や必要性を整理・検討し、「区自治協議会の果たす役割は何か」を区ごとに確立する必要がある。

○具体的な事業内容の検討にあたっては、区の特色を設定した上で、区の強みを活かした発信、人・物の資源の活用を検討する。

○実施する場合は、次項「(2) 実施に向けた検討のポイントについて」で挙げたように、「withコロナ」を考慮して企画実施していく。

(2) 実施に向けた検討のポイントについて

ア 現状及び未来に向けてできることの把握と実施

○目的を変更せず、その達成に向けて手段を変更するなど柔軟に対応し、できることから始めていく。

例：予定していたイベントを中止し、当該地域課題に係る普及啓発活動、調査研究を行う。あるいは、オンライン開催、動画の制作・配布など、同様の効果が期待される代替的な取組みを行う。

○関係するガイドライン等により、必要十分な対策を講じた上で実施する。

イ 弾力的運用の活用と推進（区内の地域活動を行う団体（以下「地域団体」とする。）への事業募集）

○感染症の状況下においても実践可能な活動事例を区自治協議会だより等で紹介し、地域団体による活用につながるよう、情報発信に努める。あるいは、地域団体と共に事業内容等を検討する。

○感染拡大の状況等を鑑みて追加募集を行う。

2 防災強化に向けた課題や取組みについて

(1) 個人や家庭でできること及び集団でできる防災訓練の見直し

ア 感染症の状況下で、従来の一堂に会する防災訓練は難しくなっており、災害時にしっかり運営できるかが課題である。

- ⇒避難所に集まる以外に、地区の班などの小さな単位で各家庭の避難計画を話し合い、互いに承知する機会をつくるよう働きかける。
- ⇒既に国内でコロナ禍でも避難所を開設したところの経験を聴くほか、実際の運営のシミュレーション等が求められる。
- ⇒区全体の防災訓練が年に一回実施できる体制づくりが必要である。

- イ 30～40歳代の若い世代は行事などの参加があまりない。
 - ⇒学校と地域と一体になって訓練の実施ができると若い世代とも顔の見える関係ができるのではないか。

(2) 情報格差の解消

- ア 新しい生活様式に沿った最新の災害対策情報を防災訓練以外で、情報格差を起さずに周知していく必要がある。
 - ⇒動画などの映像配信、テレビ、ラジオなどのメディア、チラシなどを使った情報提供、必要な知識を習得するための啓発活動ができるのではないか。

(3) 防災意識の向上

- ア 感染症対策として、避難所にこだわらない安全な場所への避難が多くなり、自助、近助、共助が重要となっていく。
 - ⇒地域のリーダーを育成するとともに、顔の見える関係づくりを意識したハザードマップ勉強会などで防災意識を高めてもらう。
 - ⇒防災士の育成に注力する。

- イ 自主防災組織が組織されていないことや自治会長が毎年変わることなどの理由から、自治会ごとに防災意識への温度差がある。また、自治会長から、どんな取組みをしたら良いか分からないといった声が聞かれる。
 - ⇒区役所が把握している、各自主防災組織が開催する防災訓練情報（いつ、なにをやるかなど）を地域の防災士や自治会などにも共有することで、お互いの防災訓練などを見学に行くことができるようになり、防災士・自治会同士のつながりや訓練内容の勉強などができるのではないか。
 - ⇒区がモデルとなるような訓練を取り上げ、事例紹介することで、自主防災組織の立ち上げや活動内容の勉強につながるのではないか。

(4) その他

- ア 避難所運営にあたっては、区自治協議会として、高い関心をもって区役所に対し意見を述べていく。ただし、地域住民の代表、避難所施設の管理者及び行政職員（避難所指名職員）が集まり、避難所運営について話し合う避難所運営体制連絡会が毎年実施されていることから、敢えて現場レベルの議論に

ついて積極的な介入は行わない。

- イ 避難行動要支援者と住民の見守りに関する、より効果的なあり方について、地域に即した対応方法を模索する。

3 会議の開催方法、それによる新たな体制・運営の確立について

(1) 区自治協議会をオンライン開催する場合の課題と、それをクリアする方法

ア 機器・ネットワーク環境等の整備

○必要な設備、環境を有していない委員の参加が課題となる。

⇒事前に委員の機器・ネットワーク環境に関する調査が必要である。

⇒あらかじめ指定した拠点から出席してもらう。

⇒全員がオンラインで出席するのではなく、可能な人のみオンラインで出席できる方式とする。

⇒ウェブカメラの貸し出しや会議室の必要機材の確保など、オンライン会議開催に適した環境を構築する。

⇒機器を用意するための助成または貸与の制度が必要である。

イ 機器等の操作研修

○慣れていない人からすると、パソコン操作、運用等が不安に感じる。

⇒事前研修の実施や、通常開催とオンラインを同時開催にして慣れていく。

ウ 会議運営方法の検討

○中身のある白熱した議論ができるのか課題。

⇒全員がオンラインで出席するのではなく、可能な人のみオンラインで出席できる方式とする。

⇒通信環境などにより、会議が中断してしまうことがあるため、会議の進行・資料の共有など事前の準備をきちんとしておくことが必要である。

○オンライン会議用のソフトウェアの設定や利用の習得、オンライン会議進行のルールづくりが課題となる。

⇒不測の事態により開催できない状況を見据え、ペーパーレスで会議を開催するなど普段から端末を利用した会議に慣れておく。

エ その他

○課題が多く、整備も必要となるため、メリット及びデメリットを整理して可能な部分から段階的に取り組み、新しい時代の区自治協議会のあり方を検討していくべきである。

○感染拡大状況によって、2分割会議（リモート出席と対面出席の併用）と書面開催を柔軟に判断する。